

# 平成17年度研究業績一覧

平成17年(2005年)4月1日～平成18年(2006年)3月31日

## 人間・心理学系

### 青木 真理

- 【論文】 ひとり時間についての意識 金成美恵  
福島大学教育実践研究紀要 第48号  
2005. 6

本県の小・中学校が抱える課題の素材に  
関する調査研究Ⅲ 宮前貢、他2名  
福島大学教育実践研究紀要 第48号  
2005. 9

「からだ」「声に出すことば」「こころ」  
をつなげる授業の試み 伊藤律子  
福島大学教育実践研究紀要 第48号  
2005. 6

- 【調査報告】 デンマーク教育事情視察報告 谷雅泰、  
他5名 福島大学地域創造 第17巻第1  
号 2005. 9

2004年度教育実践総合センター「教育実  
践」研修講座について 中野明德、他  
5名 福島大学教育実践研究紀要 第  
49号 2005. 12

グループワークを通して不登校児の親自  
身が求める援助に関する研究 岩崎陽  
子、他3名 福島大学教育実践研究紀  
要第48号 2005. 6

平成16(2004)年度福島大学教育学部附  
属臨床心理・教育相談室活動報告 中  
野明德、他2名 福島大学教育実践研  
究紀要 第48号 2005. 6

### 五十嵐 敦

- 【著書】 新・教育心理学 共著 川島書店

- 【論文】 「中学生」像とその対処 単著 更  
生保護 56巻8号 2005. 8

- 【調査報告】 フリーター実態調査 単著 調査報  
告書 2005. 12

メンタルヘルスとストレス・コーピング  
単著 産業保健情報誌「さんぽ福島」  
13号 2005. 8

これからの時代のメンタルヘルスについ  
て 単著 産業保健情報誌 合同号  
2006. 1

中学生の非行・反社会的問題行動に対す  
る危険要因と防御要因についての銃弾的  
研究 氏家達夫、二宮克美、井上裕光、  
山本ちか 科研費報告書 2006. 3

- 【学会発表】 働く人々の精神的健康と生活習慣・コー  
ピングの関連について 日本産業カウ  
ンセリング学会 函法政大 2005. 9

中学生の社会的行動についての研究(27)  
日本心理学会 函慶応義塾大 2005. 9

中学生の社会的行動についての研究(31)  
日本教育心理学会 函浅井学園大  
2005. 9

働く人々のメンタルヘルスについて  
日本産業ストレス学会 函早稲田大  
2006. 1

Trajectory of depressive symptoms in Ja  
panese early adolescence SRA(Society  
for Research on Adolescence 函San Fran  
cisco 2006. 3

### 生島 浩

- 【著書】 心理療法プリマーズ 家族療法 共著  
ミネルヴァ書房

現代のエスプリ：非行臨床の課題 編  
著 至文堂

- 【論文】 保護観察の現状と課題 単著 ジュ  
リスト 1293号 2005. 7

親面接—非行臨床の観点から 単著  
家族療法研究 22巻2号 2005. 8

保護観察と矯正施設における精神医療  
単著 こころの臨床アラカルト 24巻  
3号 2005. 9

アメリカ・カリフォルニア州における精  
神障害者の社会復帰支援施策 単著  
更生保護と犯罪予防 145号 2005. 10

学校臨床における非行問題 単著  
現代のエスプリ 461号 2005. 12

非行臨床の現状と課題 青少年問題  
53巻2号 2006. 2

- 【調査報告】 平成16年度福島大学教育学部附属臨床心  
理・教育相談室活動報告 中野明德、  
水野薫、青木真理 福島大学教育実践  
研究紀要 48号 2005. 6

2004年度教育実践総合センター「教育実  
践」研修講座について 中野明德、水  
野薫、鈴木庸裕、青木真理、宮前貢、昼  
田源四郎 福島大学教育実践研究紀要  
49号 2005. 12

- 【学会発表】 行為障害の精神療法の可能性—非行臨床  
の経験から 日本思春期青年期精神医

学会 圏郡山市 2005. 7  
 カウンセリングは「悪意」を扱えるか  
 日本カウンセリング学会 圏宇都宮市  
 2005. 8

### 岩崎 紀子

【論 文】 指導案の作成をどうするか 田中耕治  
 編『カリキュラムをつくる教師の力量形  
 成』教職研修6月号増刊(教育開発研究  
 所) 第4巻 2006. 6

【学会発表】 教育実践における教師の〈行為〉を支え  
 る〈判断〉を読み解く 日本教師教育  
 学会・第16回大会 圏山梨大学 2006.9  
 授業で育てる「力」について考える  
 日本教育方法学会・第42回大会 圏福島  
 大学 2006. 9

### 臼井 嘉一

【論 文】 ラッグカリキュラム理論と「社会問題学  
 習」(下) 安藤勝夫 福島大学教育  
 実践研究紀要 48号 2005. 6  
 シティズンシップの教育思想と「新しい  
 個人主義」 加藤国彦 福島大学教  
 育実践研究紀要 49号 2005.12

### 内田 詔夫

【論 文】 哲学と教育と日常の接点—日常の学習や  
 生活に即して自ら考えさせ人間理解を深  
 めさせるための哲学教育を目指して  
 東北哲学会年報 第21号 2005. 5

### 小野原雅夫

【論 文】 晩年における「アプリアリな実践的総合  
 命題」—なぜ≪法の定言命法≫は「定  
 言命法」と呼ばれなかったか?— 単  
 著 日本カント協会編『日本カント研  
 究6 批判哲学の今日的射程』理想社  
 第6巻 2005. 9

【学会発表】 平和の定言命法と平和実現のための仮言  
 命法 日本カント協会30周年記念大会、  
 共同討議「21世紀の永遠平和論」 圏お  
 茶の水女子大学 2005.12

コンピテンスの獲得をめざした初年次導  
 入教育の実践—FDワークショップか  
 ら教室へ— 第12回大学教育研究集会  
 圏京都大学 2006. 3

### 大宮 勇雄

【著 書】 保育の質を高める 単著 ひとなる  
 書房

【論 文】 幼児教育ってなんだろう 単著 保  
 育通信 615~618号 2006.8~11

### 角間 陽子

【学会発表】 超高齢社会における世代間交流のあり方  
 —長野市鬼無里地域での実践を通して—  
 田中慶子、角尾晋、草野篤子(共同発表)  
 日本家政学会第57回大会 圏中村学園大  
 学 2005. 5

### 木暮 照正

【論 文】 社会貢献・地域連携と大学：その論点整  
 理 福島大学生涯学習教育研究センタ  
 ー年報 第11巻 2006. 3

【調査報告】 平成17年度「公開講座・公開授業アンケ  
 ート調査」：実施報告 福島大学生涯学  
 習教育研究センター年報 第11巻  
 2006. 3

第27回全国国立大学生涯学習系センタ  
 ー研究協議会参加報告 福島大学生涯学  
 習教育研究センター年報 第11巻  
 2006. 3

【学会発表】 視覚短期記憶における属性容量と物体容  
 量との関連性について 日本認知心理  
 学会第3回大会 圏金沢大学 2005. 5

社会的できごとの生起時期推定(3)：短  
 縮版テストによる高齢者の生起時期推定  
 の検討 日本心理学会第69回大会  
 圏慶応義塾大学 2005. 9

### 鈴木 庸裕

【著 書】 スクールソーシャルワークの展開 共  
 著 学苑社 2005

【論 文】 地域生活を支援する言語聴覚士の役割  
 共著 福島大学教育実践研究紀要 48号  
 2005. 6

乗馬を通じた子どもの変容に関する研究  
 共著 福島大学教育実践研究紀要 48号  
 2005. 6

小学校でのソーシャルスキル教育 共  
 著 福島大学教育実践研究紀要 48号  
 2005. 6

子どもの心の発達と食育 学校の食事  
 (学校食事研究会) 38巻7号~39巻3  
 号(連載)

学校、家庭、地域をつなぐ学校ソーシ  
 ャルワークの実践的課題 子ども家庭福  
 祉学(日本子ども家庭福祉学会編)  
 2006. 2

【学会発表】 スクールソーシャルワーカーから見た子  
 ども・家庭・地域 第11回日本特別ニ  
 ーズ学会 圏和光大学 2005.10

### 住吉 チカ

【著 書】 朝倉心理学講座第2巻 認知心理学(第

- 6章 問題解決) 単著 朝倉書店 2005.5
- 【論 文】** 第二世代抗精神病薬と認知機能 住吉太幹、住吉チカ 臨床精神医学 34 2005
- Atypical antipsychotic drugs and organization of long-term semantic memory : Multidimensional Scaling and cluster analyses of category fluency performance in Schizophrenia Sumiyoshi,C., Sumiyoshi,T., Roy,A., Jayathilake,K., Meltzer,H., International Journal of Neuropsychopharmacology, in press. in press
- Disorganization of semantic memory underlies alogia in Schizophrenia : an analysis of verbal fluency performance in Japanese subjects. Sumiyoshi,C., Sumiyoshi,T., Nohara,S., Yamashita,I., Matsui,M., Kurachi,M., Niwa,S., Schizophrenia research 74 2005
- 【学会発表】** 統合失調症患者における精神症状と長期意味記憶機能との関連：語流暢性課題による検討 日本生物学的精神医学会 大阪国際交流センター 2005. 7
- Memory Process for phonologically ambiguous graphemes in the second and native language : an fMRI study using Japanese speaker International Society for Magnetic Resonance in Medicine, Miami, USA 2005. 5
- 千葉 桂子**
- 【学会発表】** Attempt of Clothes Life Study for the Mentally Disabled Children' Independence 2005 SEOUL International Clothing and Textiles Conference 韓国Hanyang University, Seoul, Korea 2005. 8
- 鶴巻 正子**
- 【論 文】** 注意欠陥／多動性障害のある児童における漢字の書字行動の獲得—書字練習の回数を増やすための方法— 鶴巻正子、齋藤はるか 福島大学人間発達文化学類論集1 2005. 6
- 【学会発表】** Teaching handwriting behavior of Chinese characters to a child with mental retardation(2) Association for Behavior Analysis International, 31st Annual ABA Convention 米国Hilton Chicago 2005. 5
- Acquisition process in Learning Handwriting Chinese Characters to Children with Learning Disabilities Association for Behavior Analysis International, 31st Annual ABA Convention 米国Hilton Chicago
- 構成反応見本合わせ課題によるAD/H D児への書字指導—漢字の左右の構成部分を組み合わせて— 日本行動分析学会第23回年次大会 関常磐大学 2005. 7
- 注意欠陥／多動性障害児における書字行動の獲得—構成反応見本合わせ法による効果— 日本特殊教育学会第43回大会 関金沢大学 2005. 9
- 中野 明德**
- 【著 書】** メンタルヘルス事典増補改訂版 共著 (分担執筆) 同朋舎メディアプラン
- 【論 文】** 中学生の自我機能に関する研究 山本亮子 福島大学教育実践研究紀要 48巻 2005. 6
- 校内におけるメンタルフレンドの活用 榊原康夫、星裕子 福島大学教育実践研究紀要 48巻 2005. 6
- ロールシャッハ法と精神分析 (その2)—内容分析を中心に— 単著 福島大学人間発達文化学類論集 (教育・心理学部門) 2号 2005. 12
- 【調査報告】** グループワークを通して不登校児の親自身が求める援助に関する研究 岩崎陽子、河島美和、中島朋代、青木真理 福島大学教育実践研究紀要 48巻 2005. 6
- 2004年度臨床心理・教育相談室「フレンドルーム」活動報告 作田美穂、東敏之、遠藤佳子、小原多須奈、金野愛、他7名 福島大学教育実践研究紀要 48巻 2005. 6
- 平成16 (2004) 年度福島大学教育学部附属臨床心理・教育相談室活動報告 青木真理、生島浩、水野薫 福島大学教育実践研究紀要 48巻 2005. 6
- 2004年度教育実践総合センター「教育実践」研修講座について 青木真理、昼田源四郎、生島浩、鈴木庸裕、宮前貢、水野薫 福島大学教育実践研究紀要 49巻 2005. 12
- 【学会発表】** 教師のストレス—日米中学校教師の調査から— 第21回日本精神衛生学会 秋田大学 2005. 10
- 中村 恵子**
- 【学会発表】** 凍み大根の分布と加工方法について 日本家政学会 福岡 2005. 5
- 農産物の加熱過程における細胞膜状態の変化 日本食品工学会 大阪 2005. 8

**浜島 京子**

【論 文】 第9回県中地方公衆衛生大会参加者及び表彰者の生活意識と実態—生活満足度を中心に— 浜島京子、鈴木裕美子  
福島大学生涯学習教育研究センター年報 第11巻 2006. 3

【調査報告】 学校と家庭を繋ぐ生活教育プログラムの開発 単著 平成14年度～16年度科学研究費補助金研究成果報告書 2005. 6

【学会発表】 日本の子どもの生活実態及び教科観にみる生活教育の課題 浜島京子、富田美恵子 日本家庭科教育学会東北地区会第28回大会 圏仙台市イズミテイ21 2005. 11

**原野 明子**

【著 書】 教育心理学の基本理解 共著 同文書院

**松崎 博文**

【学会発表】 「高機能自閉症幼児への就学前早期支援(1)—福島大学「つばさ教室」開設の経緯と概要— 松崎博文 日本特殊教育学会第43回大会 圏金沢大学 2005. 9

「高機能自閉症幼児のソーシャルスキル向上をめざした支援～福島大学「つばさ教室」での取り組み～」 松崎博文、昼田源四郎、鶴巻正子 第25回日本教育大学協会全国特殊教育研究部門合同研究集会鳥取大会 圏鳥取大学 2005. 12

**水間 玲子**

【著 書】 よくわかる臨床発達心理学 麻生武、浜田寿美男(編) 単著(分担執筆) ミネルヴァ書房

自己意識心理学研究の現在2 梶田叡一(編) 単著(分担執筆) ナカニシヤ出版

【学会発表】 What's the structure of subjective reasoning for self-evaluation?: Its patterns and relations with individual value system and self-esteem type. The 12th European Conference on Developmental Psychology 圏Spain: Universidad de La Laguna 2005. 8

出来事と自己との関係性(1)—自己意識、人間関係、社会的態度と自尊感情の変動性との関連— 日本心理学会第69回大会 圏慶應義塾大学 2005. 9

出来事と自己との関係性(2)—友人関係の群間における対人関係の出来事による影響の差異— 日本心理学会第69回大会 圏慶應義塾大学 2005. 9

「自分探し」の様相について(1)—自己と生き方に関する素朴な考え方からの検討— 日本発達心理学会第17回大会 圏九州大学 2006. 3

大学生の生活・人生との関連における大学教育の意味について 第12回大学教育研究フォーラム 圏京都大学 2006. 3

**森田 道雄**

【論 文】 1980年代の「恵那の教育」の到達点(5) 福島大学人間発達文化学類論集 第3号 2006. 6

1980年代の「恵那の教育」の到達点(6) 福島大学人間発達文化学類論集 第4号 掲載予定 2006. 12予定

【調査報告】 生徒の意識・行動に及ぼす教室環境設計の影響の研究 科研費報告書 2006. 3

**渡辺 隆**

【調査報告】 日本思春期青年期精神医学会印象記 単著 季刊精神療法 31(6) 780—781 2005. 12

【学会発表】 児童虐待の類型分類と介入援助モデルについて—児童相談所での身体的虐待事例の分析を通して— 単著 日本福祉心理学会第3回大会 圏筑波大学東京キャンパス 2005. 7

思春期のアスペルガー障害を持つ性的逸脱事例への対応 単著 日本思春期青年期精神医学会18回大会 圏郡山市 2005. 7

乳幼児健康診査における虐待ハイリスクスクリーニングの活用 共著 東北公衆衛生学会第54回大会 圏福島市 2005. 5

**文学・芸術学系****天形 健**

【論 文】 版表現再考 単著 美育文化 Vol.55 No.6 2005. 11

【学会発表】 戦後教科書における「デザイン」の研究 美術科教育学会 圏京都教育大学 2006. 3

【書 評】 感性による教育の潮流 美育文化 Vol.56 No.1 2006. 1  
表現のすすめ 「形」Forme No.297— 2005 2005. 9

**新井 浩**

【著 書】 『ベーシック造形技法』 共著 建帛社

- 【論 文】 具象彫刻における寄木表現の今日的諸相  
と位置 大学美術教育学会誌 第38号  
2006. 4 東京ハルモニア室内オーケストラ第31回  
定期演奏会 東京ハルモニア室内オー  
ケストラ 2005. 10
- 【学会発表】 今日の寄木彫刻—具象彫刻の再検証を通  
して— 大学美術教育学会 岡岡山大  
学 2005. 11 第22回箱根の秋音楽祭 東京ハルモニ  
ア室内オーケストラ 2005. 11
- 【実 技】 蝶が舞う森 No. 4 第78回国展彫刻部  
 園東京都美術館 会員として  
 2005. 4～5 セミナーレ・カメラータ第6回コンサ  
ート セミナーレ・カメラータ 2006. 2
- 作品3点 現代彫刻作家レリーフ作品  
特集 選抜 園日本橋三越本店 2005. 6
- 奏—吹き渡る風(小)— YEAR END  
EXHIBITION OF MINI-SCULPTURE 選  
抜 園ギャラリーせいほう 2005. 12
- 蝶が舞う森 第59回福島県展 招待  
園福島県文化センター 2005. 6
- 作品4点 立体の魅力展 企画展  
園そごう大宮店 2006. 2
- 奏—吹き渡る風— 第27回国展彫刻  
部秋季展 会員として 2005. 9～10
- 井実 充史**
- 【論 文】 〈道〉〈俗〉対立の構造—『経国集』「梵  
門」を中心に— 福島大学研究年報  
創刊号 2005. 12
- 空海詩賦の方法—〈道〉〈俗〉対立と  
〈俗〉への対抗— 言文 第53号  
2006. 3
- 【学会発表】 空海詩賦の方法 和漢比較文学会  
園早稲田大学 2006. 1
- 片野 一**
- 【実 技】 木工芸作品「静かな日」 第27回日本  
新工藝展 園上野の森美術館
- 木工芸作品「初夏の風」 第23回新工  
芸東北会展 園仙台メディアテーク
- 木工作品「木象嵌楕円盛器」 第23回  
新工藝東北会展 園仙台メディアテーク
- 勝倉 壽一**
- 【著 書】 大鏡の史的空間 単著 風間書房
- 【論 文】 『本朝二十不孝』「枕に残す筆の先」の解  
釈 言文 53号 2006. 3
- 【書 評】 山下久夫著『秋成の「古代」』 国語と  
国文学 82巻12号 2005. 12
- 金谷 昌治**
- 【実 技】 ふれあいコンサート 郡山音楽ボラン  
ティア響会 2005. 9
- カメラータセシリア・チャリティーコン  
サート 児童養護施設あかつきの村
- 澤 正宏**
- 【著 書】 子供たちに伝えたい校長先生の話 単  
著 翰林書房 2005. 5
- 【論 文】 西脇順三郎の詩「馥郁タル火夫」を読む  
(上) 単著 人間発達文化学類論  
集第1号 2005. 6
- 【調査報告】 昭和十二年の西脇順三郎 単著  
幻影(西脇順三郎を偲ぶ会会報) 第22号  
2005. 5
- 【学会発表】 文学作品を読む(「語り」を読むことを中  
心に) 福島大学国語教育文化学会  
園福島大学総合教育研究センター  
2005. 8
- 澁澤 尚**
- 【論 文】 「菰」の本草学—陸游詩所詠菰草考序  
説— 単著 『福島大学研究年報』  
創刊号 2005. 12
- 【学会発表】 本草家としての陸游 本草研究会  
園名古屋市民会館 2005. 10
- 嶋津 武仁**
- 【論 文】 自作品を語る「いい加減な対角線Ⅱ」  
New Composer、日本現代音楽協会出版  
6号 2005. 6
- 【実 技】 シアターピース作品「いい加減な対角線  
～日本舞踊とフルート、13絃箏と17絃箏、  
コンピュータそして…の間に描く」  
ドレスデン音楽祭 園ドレスデン国立歌  
劇場 2005. 5
- 指揮「福島大学管弦楽団サマー・コン  
サート」 福島大学管弦楽団 園福島  
市音楽堂 2005. 7
- 作品「星巡りⅡ」 『祐子の会』 園紀  
尾井ホール
- 指揮と作品「静かの夜に」(弦楽合奏のため) 他、アレンジ クリスマス・コ  
ンサート 園福島市音楽堂 2005. 12
- 杉田 政夫**
- 【著 書】 学校音楽教育とヘルバルト主義 単著  
風間書房  
「唱歌教育におけるヘルバルト主義」『音

楽教育史論叢』第Ⅲ巻（上） 共著  
開成出版

## 中川 祐治

【論 文】 新語「はんばない」について—ブログに  
みられる表現を中心に— 言 文 53号  
2006. 3

【学会発表】 言語変化の一類型—副詞の文法化をめぐっ  
て— 福島大学国語教育文化学会後期  
学会 函 福島大学 2005. 12

## 中畑 淳

【実 技】 Piano Duo Concert 山形大学地域教育  
文化学部音楽芸術コース 2005. 5

仙台モーツァルト協会第205回例会 仙  
台モーツァルト協会（「モーツァルト生誕  
250年記念企画」） 2006. 2

## 半沢 康

【著 書】 新版日本語教育事典 共著 大修館  
書店

【論 文】 「東北地方における関西方言の受容実態」  
『関西方言の広がりコミュニケーション  
の行方』（和泉書院） 2005. 12

「宮城・山形県境地域の方言の実態—七  
ヶ宿街道沿いの調査から—」 武田拓  
『仙台電波工業高等専門学校研究紀要』  
35 2005. 12

「阿武隈急行グロットグラム調査報告  
（1）」 武田拓 『福島大学研究年  
報』 1 2005. 12

## 平田 公子

【論 文】 明治20年代前半の日本音楽観—松本操貞  
と山田雲外の論争を通して— 福島大  
学人間発達文化学類論集 第2号  
2005. 12

【学会発表】 明治20年代前半の音楽論にみる日本音楽  
観 日本音楽学会東北・北海道支部  
2005年度第2回例会 函 福島大学  
2006. 3

## 健康・運動学系

## 新谷 崇一

【調査報告】 福島市の生涯スポーツの構築に向けて～  
福島市民体育祭を通して～ 平野泰宏  
福島大学地域創造 第17巻 第2号  
2006. 2

## 小川 宏

【論 文】 スノースポーツにおける指導の在り方に  
関する研究～「楽しさ・喜び」に立脚し  
た学習指導の提案～ 浅野純平 福

島保健体育学研究 第17号 2006. 3

【調査報告】 福島大学学生の「身体リテラシー」に関  
する実態調査 健康・運動学系教員一  
同 福島大学研究年報 創刊号  
2005. 12

## 川本 和久

【論 文】 わが国における過去30年間のスプリント  
技術の指導変遷と技術史 茂木麻子  
福島県体育研究 16号 2006. 3

【調査報告】 吉田真希子の足跡・その2・大学4年間  
吉田真希子 陸上競技研究 62号  
2005. 9

ジュニアからシニアへのトレーニング  
トレーニング科学 18巻1号 2006. 3

【学会発表】 40秒走の実施とその効果について 日  
本スプリント学会 函 都留文科大学  
2005. 11

ジュニアからシニアへのトレーニング  
日本トレーニング学会 函 三重 2005. 11

【実 技】 池田久美子：100m H 第89回日本陸上  
競技選手権 1位 函 東京 2005. 6

丹野麻美：200m 第89回日本陸上競技  
選手権 2位 函 東京 2005. 6

吉田真希子：400m H 第89回日本陸上  
競技選手権 2位 函 東京 2005. 6

久保倉里美：400m H 第89回日本陸上  
競技選手権 3位 函 東京 2005. 6

丹野麻美：400m 第89回日本陸上競  
技選手権 1位 日本記録 函 東京  
2005. 6

久保倉里美：400m 第89回日本陸上競  
技選手権 2位 函 東京 2005. 6

吉田真希子：400m 第89回日本陸上競  
技選手権 3位 函 東京 2005. 6

池田久美子：走幅跳 第89回日本陸上  
競技選手権 1位 函 東京 2005. 6

丹野麻美：400m 第74回日本学生陸上  
競技対校選手権 1位 函 東京 2005. 7

青木沙弥佳：400m 第74回日本学生陸  
上競技対校選手権 2位 函 東京  
2005. 7

熊谷史子：100m H 第74回日本学生陸  
上競技対校選手権 3位 函 東京  
2005. 7

栗本佳世子：100m 第74回日本学生陸  
上競技対校選手権 2位 函 東京  
2005. 7

福島大学：4×100m R 第74回日本学

- 生陸上競技対校選手権 1位 日本学生記録 圏東京 2005.7
- 丹野麻美：200m 第74回日本学生陸上競技対校選手権 1位 圏東京 2005.7
- 青木沙弥佳：400m H 第74回日本学生陸上競技対校選手権 2位 圏東京 2005.7
- 福島大学：4×400m R 第74回日本学生陸上競技対校選手権 1位 圏東京 2005.7
- 福島大学：女子総合 第74回日本学生陸上競技対校選手権 2位 2005.7
- 福島大学：女子トラック 第74回日本学生陸上競技対校選手権 1位 2005.7
- 福島大学：多種目優勝 第74回日本学生陸上競技対校選手権 1位 2005.7
- 丹野麻美：400m 第10回世界選手権 出場 圏ヘルシンキ 2005.8
- 池田久美子：走幅跳 第10回世界選手権 出場 圏ヘルシンキ 2005.8
- 丹野麻美：400m 第23回ユニバーシアード 4位 圏イズミール 2005.8
- 池田久美子：100m H 第16回アジア選手権 3位 圏インチョン 2005.9
- 丹野麻美：400m 第16回アジア選手権 3位 圏インチョン 2005.9
- 吉田真希子：400m H 第16回アジア選手権 3位 圏インチョン 2005.9
- 久保倉里美：400m H 第16回アジア選手権 4位 圏インチョン 2005.9
- 池田久美子：走幅跳 第16回アジア選手権 3位 圏インチョン 2005.9
- 久保倉里美：4×400m R 第16回アジア選手権 3位 圏インチョン 2005.9
- 丹野麻美：4×400m R 第16回アジア選手権 3位 圏インチョン 2005.9
- 木田真有：4×400m R 第16回アジア選手権 3位 圏インチョン 2005.9
- 吉田真希子：4×400m R 第16回アジア選手権 3位 圏インチョン 2005.9
- 沼田拓也：800m 05全日本学生チャンピオンシップ 1位 圏平塚 2005.9
- 栗本佳世子：100m 05全日本学生チャンピオンシップ 1位 圏平塚 2005.9
- 渡辺真弓：100m 05全日本学生チャンピオンシップ 2位 圏平塚 2005.9
- 青木沙弥佳：400m 05全日本学生チャンピオンシップ 1位 圏平塚 2005.9
- 丹野麻美：800m 05全日本学生チャンピオンシップ 1位 圏平塚 2005.9
- 熊谷史子：100m H 05全日本学生チャンピオンシップ 1位 圏平塚 2005.9
- 栗本佳世子：200m 05全日本学生チャンピオンシップ 2位 圏平塚 2005.9
- 松田薫：200m 05全日本学生チャンピオンシップ 3位 圏平塚 2005.9
- 青木沙弥佳：400m H 05全日本学生チャンピオンシップ 1位 圏平塚 2005.9
- 金田一菜可：400m H 05全日本学生チャンピオンシップ 3位 圏平塚 2005.9
- 丹野麻美：400m スーパー陸上 日本記録 圏横浜 2005.9
- 栗本佳世子：スエーデン R 実業団対学生対抗 日本記録 圏平塚 2005.10
- 青木沙弥佳：スエーデン R 実業団対学生対抗 日本記録 圏平塚 2005.10
- 丹野麻美：スエーデン R 実業団対学生対抗 日本記録 圏平塚 2005.10
- 福島大学：4×100m R 第89回日本陸上競技選手権 1位 圏群馬 2005.10
- 福島大学：4×400m R 第89回日本陸上競技選手権 1位 圏群馬 2005.10
- 丹野麻美：800m 第60回国民体育大会 1位 圏岡山 2005.10
- 宮田貴志：100m 第60回国民体育大会 2位 圏岡山 2005.10
- 青木沙弥佳：400m 第60回国民体育大会 1位 圏岡山 2005.10
- 吉田真希子：400m 第60回国民体育大会 2位 圏岡山 2005.10
- 久保倉里美：400m 第60回国民体育大会 3位 圏岡山 2005.10
- 栗本佳世子：4×100m R 第60回国民体育大会 2位 圏岡山 2005.10
- 池田久美子：走幅跳 第4回東アジア大会 1位 圏マカオ 2005.11
- 栗本佳世子：200m 第4回東アジア大会 4位 圏マカオ 2005.11
- 久保倉里美：400m H 第4回東アジア大会 3位 圏マカオ 2005.11
- 丹野麻美：400m 第4回東アジア大会 1位 圏マカオ 2005.11

- 木田真有：400m 第4回東アジア大会  
4位 関マカオ 2005.11
- 栗本佳世子：4×100m R 第4回東ア  
ジア大会 1位 関マカオ 2005.11
- 池田久美子：100m H 第4回東アジア  
大会 3位 関マカオ 2005.11
- 栗本佳世子：4×400m R 第4回東ア  
ジア大会 2位 関マカオ 2005.11
- 木田真有：4×400m R 第4回東アジ  
ア大会 2位 関マカオ 2005.11
- 丹野麻美：4×400m R 第4回東アジ  
ア大会 2位 2005.11

### 菅家 礼子

- 【論 文】 よい動きの連続体操の立場から－  
女子体育（日本女子体育連盟発行）47巻  
・9号 2005.9

### 黒須 充

- 【著 書】 総合型地域スポーツクラブ活動事例集  
編著 広研印刷 2006.3
- 【論 文】 子どもを育てる学校と地域の連携モデル  
日本発育発達学会編「子どもと発育発達」  
Vol.3 No.4 2006.1
- 【調査報告】 総合型地域スポーツクラブの財源確保を  
考える みんなのスポーツ（日本体育  
社）2005年6月号 Vol.314 2005.6
- 大学発 地域と協働するスポーツ組織  
月刊 体育施設 2005年10月号 2005.9
- スポーツと地域振興 北海道東北地域  
経済総合研究所機関誌 NETT No.51  
2005.10
- 第5回総合型地域スポーツクラブ育成状  
況に関する調査報告書 NPO法人クラ  
ブネッツ Vol.2 2005.11
- 総合型地域スポーツクラブの推進による  
地域教育力の再生 文部科学時報  
No.1559 2006.1
- スポーツ指導者の活躍を支援しよう  
みんなのスポーツ（日本体育社）2006  
年1/2月号 Vol.320 2006.1
- 日本体育協会の総合型クラブと育成支援  
みんなのスポーツ（日本体育社）Vol.321  
2006.3
- 総合型地域スポーツクラブの社会的効果  
に関する調査報告書 うつくしま広域  
スポーツセンター 2006.3
- 【学会発表】 総合型地域スポーツクラブ施策の検証と  
今後の展望 日本体育学会第56回大会  
体育社会学キーノートレクチャー 関筑  
波大学 2005.11

地域で創る豊かなスポーツ環境 生涯  
スポーツコンベンション2006 関ホテル  
日航熊本 2006.2

### 坂上 康博

- 【著 書】 明治時代館 共著 小学館  
郷土史大辞典 共著 朝倉書店
- 【論 文】 Sakaue, Y.: Sports and Politics: The Case  
of Japanese Sport in the Inter-war Years.  
大谷武一 体育の科学 第56巻第2号  
2006.2
- Proceedings of the 20th International Con-  
gress of Historical Sciences(CD-ROM)  
2005
- 【学会発表】 Sports and Politics: The Case of Japanese  
Sport in the Inter-war Years. Session  
25 "Sports, Politics and Business" in the  
20th International Congress of Historical  
Sciences 関Sydney 2005.7
- 【書 評】 西尾達雄『日本植民地下朝鮮における学  
校体育政策』日本歴史 第684号  
2005.5

### 佐々木武人

- 【論 文】 一流柔道選手を対象とした釣手動作の検  
討 共著 講道館柔道科学研究会紀  
要講道館 第10輯 2005.4
- 武道の特性を応用した臨床的運動療法の  
可能性について 共著 福島大学教  
育実践研究紀要 第48号 2005.6
- 福島大学学生の「身体リテラシー」に関  
する実態調査 共同研究；共著 福  
島大学研究年報 第1巻 2005.12
- 【学会発表】 武道の特性を応用した精神障害者への運  
動療法の可能性について 共著 第  
3回日本スポーツ精神医学会大会 関大  
阪大学医学部 2005.9

### 佐藤 理

- 【著 書】 保健室登校で育つ子どもたち 共著  
農文教
- 【調査報告】 福島大学学生の「身体リテラシー」に関  
する実態調査 健康・運動学系教員  
福島大学研究年報 創刊号 2005.12
- 通常学級で学ぶ病気や障害のある子ども  
の支援に関する研究 野村和雄 日  
本教育保健学会年報 第13号 2006.3

### 白石 豊

- 【著 書】 心を鍛える言葉 単著 NHK出版
- 【論 文】 動作の習熟に求められる指導と環境  
単著 体育の科学 第55巻第7号



2005. 7  
 コーチの言葉 単著 女子体育 第  
 6月号 2005. 6
- 杉浦 弘一**
- 【調査報告】 福島大学学生の「身体リテラシー」に關する実態調査 新谷崇一、小川宏、菅家礼子、川本和久、工藤孝幾、黒須充、佐々木武人、佐藤理、坂上康博、白石豊、鈴木裕美子、中村民雄、深倉和明、森知高、安田俊広 福島大学研究年報 創刊号 2005. 12
- 【実 技】 福島大学女子バスケットボール部（ヘッドコーチ） 第6回東北学生バスケットボールリーグ 第4位 2005. 9~10  
 福島県成年女子選抜（バスケットボール競技）（監督） 第60回国民体育大会 1回戦 2005. 10  
 片寄宏美（成年女子選抜選手） 第60回国民体育大会 1回戦 2005. 10  
 福島大学女子バスケットボール部（ヘッドコーチ） 第58回福島県総合体育大会 第3位 2005. 7
- 鈴木裕美子**
- 【論 文】 福島大学学生の「身体リテラシー」に關する実態調査 新谷崇一、小川宏、菅家礼子、川本和久、工藤孝幾、黒須充、佐々木武人、佐藤理、坂上康博、白石豊、杉浦弘一、中村民雄、深倉和明、森知高、安田俊広 福島大学研究年報 創刊号 2005. 12  
 第9回県中地方公衆衛生大会参加者及び表彰者の生活意識と実態—生活満足度を中心に— 浜島京子 福島大学生涯学習教育研究センター年報 第11巻 2006. 3
- 【調査報告】 生涯学習におけるダンス—日英米3国比較— 舞踊学 27号 2005. 5  
 イギリス、アメリカ、カナダの舞踊教育 舞踊学 27号 2005. 5
- 森 知高**
- 【著 書】 教養としての体育原理 共著 大修館書店
- 【論 文】 個別に支援を必要とする児童への対応とその課題 高橋由美子、本多 環、難波和生 福島大学教育実践研究紀要 第49号 2005. 12
- 安田 俊広**
- 【論 文】 健康運動学系：福島大学学生の「身体リテラシー」に關する実態調査 福島大

学研究年報 創刊号：1—16 2005  
 定期的な低強度筋力トレーニングが高齢者の体力および包括的健康度に与える影響 清野諭 福島保健体育学研究 17：11—16 2006

スノーボードロングターンカービングを対象とした動作意識の定性的分析 北村勝郎、山内武巳、高戸仁朗、齋藤茂、永山貴洋、奥津光晴 東北体育学研究 23, 23—30 2005

- 【学会発表】 定期的な筋力トレーニングが高齢者の体力および包括的健康度に与える影響 第60回日本体力医学会 福岡山 2005. 9  
 一流スノーボード指導者によるロングターンカービングターンの動作分析—第2報— 第56回日本体育学会 函筑波 2005. 11

## 外国語・外国文化学系

### 井本 亮

- 【論 文】 連用修飾と動詞—修飾の基本原則と関係構成の多様性から動詞句の意味を探るアプローチ— 國文學 解釈と教材の研究 5月号 2005. 5  
 動詞句の意味と副詞的修飾関係—関係構成のあり方を重視するアプローチ— 日本学報 64輯 2005. 8  
 「さかさまに置いた」再考 文法理論の諸言語現象への適切な適用にむけて（平成17~18年度科学研究費補助金研究成果報告書（研究代表者：矢澤真人））2006. 3  
 実験言語学の展望：日本語文法脳機能研究部会の発足に向けて 福盛貴弘、阿部二郎、石田尊、井本亮、川野靖子、富樫純一、福嶋健伸、茂木俊伸 文法理論の諸言語現象への適切な適用にむけて（平成17~18年度科学研究費補助金研究成果報告書（研究代表者：矢澤真人））2006. 3
- 【学会発表】 状態変化の進展と時間 現代日本語文法研究会 函筑波大学 2005. 10

### 衛藤 安治

- 【著 書】 『ことばの楽しみ』 共著 南雲堂
- 【論 文】 「古英詩 Andreas, ll. 729—34について」 『英語史研究会会報』 第13号 2005. 6  
 「生成文法雑感」 『英語史研究会会報』 第14号 2005. 12

### 金 敬雄

- 【論 文】 中日両言語との比較から見た朝鮮語の漢字語 一等級別国語教育用語集を中心に

— 『国際文化研究』 第12号  
2006. 3

- 【学会発表】 中日との比較から見た朝鮮語の漢字語彙  
— 等級別国語教育用語彙を中心に—  
韓国日語日文学会 函韓国全州市・全北  
大学校 2005. 6

### 九頭見和夫

- 【論 文】 江戸時代の「人魚」像 (1) 単著  
福島大学人間発達文化学類論集 第2号  
2005. 12

宮澤賢治の造語「イーハトヴ」について  
単著 PS JOURNAL (日本図書センタ  
ー) 第9号 2006. 3

- 【訳書・翻訳】 エーテル・コッハー／ハンス・アマン共  
著 赤十字の父 アンリー・デュナン  
単著 春風社 2005. 10

### グンスケ・フォン・ケルン マルティーン

- 【論 文】 Einsatz von neuen Medien : Internetbe-  
nutzung im Schreibunterricht Deutsch  
als Fremdsprache in Korea 16号 2005. 8

Virtuelle Reise in die DACH-Länder. Ein  
Internet-Projekt nicht nur für japan-  
ische Deutschlernende Fremdsprache  
Deutsch 33号 2005. 10

Medieneinsatz im Unterricht - Zwei Wege  
für die Wortschatzarbeit Herausfor-  
derung und Chance-Krisenbewältigung im  
Fach Deutsch als Fremdsprache in Japan  
2005. 12

Lernen in fiktiven und virtuellen Welten-  
Simulationen als Ergänzung und Alter-  
native zu kurstragenden Lehrwerken im  
Grundstufenunterricht Neue Beiträge  
zur Germanistik 4巻4号 2005. 12

- 【学会発表】 Einsatz von neuen Medien : Internetbe-  
nutzung im Schreibunterricht Inter-  
nationales Symposium: Neue Medien im  
DaF Unterricht 函ソウル、韓国  
2005. 4

Projektunterricht : Sprachbegegnung im  
handlungsorientierten Landeskundeun-  
terricht Internationale Deutschle-  
hrerInnentagung 函グラーツ、オーストリア  
2005. 8

Lernende wollen autonom lernen! Ein  
Beispiel für autonomes Lernen im  
Bereich Landeskunde Internationale.  
DeutschlehrerInnentagung 函グラーツ、  
オーストリア 2005. 8

### 佐久間康之

- 【著 書】 「言語習得の必要条件：脳を刺激する音  
読のメカニズム」 『PCOLA 理論  
編1』 分担・単著 ニチブン  
2005. 10

「外国語としての英語を理解するには：  
言語処理における記憶の役割」『記憶の心  
理学と現代社会』 分担・単著 有  
斐閣 2006. 3

### 佐々木俊彦

- 【論 文】 The Trainspotting Phenomenon in Brit-  
ain, 1993-1995: The Formation of the Dis-  
courses on the Novel, Its Adaptations  
and Irvine Welsh The Shogaku Ron-  
shu Vol. 74, No. 2 2006. 1

### 佐野 敦至

- 【著 書】 フランス語を探る 共著 三修社

- 【論 文】 話し言葉における主語名詞句の左方転位  
と接辞代名詞 フランス語を探る  
2005. 11

### 田村奈保子

- 【論 文】 現代日本におけるブランド概念に関する  
一考察 田村弘行 行政社会論集  
第18巻第3号 2006. 1

- 【調査報告】 パリにおける文化的催しの紹介 福島  
大学生涯学習教育研究センター年報 第  
11巻 2006. 3

### 根本 典子

- 【論 文】 Verbal Polysemy and Frame Semantics in  
Construction Grammar : Some Observa-  
tions on the Locative Alternation Gram-  
matical Constructions : Back to the Roots  
2005. 12

### 林 修

- 【著 書】 Marguerite Yourcenar—La femme, les  
femmes, une écriture - femme? 共著  
Societe Internationale d'Etudes Yource-  
nariennes (Clermont-Ferrand, FRANCE)

- 【学会発表】 Nouvelles orientales—une autre diag-  
nostique de l'Europe? 国立アイルラン  
ド大学主催国際ユルスナール研究学会  
函メヌース (アイルランド) 2005. 11

Marguerite Duras: communaute amoureuse,  
communaute a deux 筑波大学・東京日  
仏会館主催シンポジウム「エクリチュ  
ール・思想・共同体—1945年～1968年のフ  
ランス—」 函東京日仏学館 2005. 12

La Memoire de l'Invisible—ce que Mar-  
guerite Duras a vu a Hiroshima Lou-

vain-La-Neuve 大学主催国際デュラス学会  
「Desseins de Memoire et d'Oubli」  
ⓐルーヴァン＝ラ＝ヌーヴ（ベルギー）  
2006. 3

## 福富 靖之

【論 文】 Japanese Right Dislocation: A Minimalist Account Ellipsis in Minimalism: Proceedings of the 7th Seoul International Conference On Generative Grammar  
2005. 8

【学会発表】 The Copy Theory of Movement: A Case of Japanese Right Dislocation 15th Colloquium on Generative Grammar  
ⓐBarcelona 2005. 4

Japanese Right Dislocation: A Minimalist Account 7th Seoul International Conference On Generative Grammar  
ⓐSeoul 2005. 8

## 吉川 宏人

【論 文】 ゴーゴリ『ローマ（断章）』—自伝として、物語として スラヴィアーナ 第20号  
2005. 11

ゴーゴリ『狂人日記』における「演じる  
こと」 商学論集 第74巻第3号  
2006. 3

## 法律・政治学系

### 稲庭 恒一

【著 書】 論点整理 商法総則・商行為法 共著  
法律文化社

新版基本問題セミナー1 会社法 共著  
成文堂

【論 文】 株式譲渡制限会社における議決権行使代理人の株主限定定款規定と非株主弁護士代理人 単著 判例タイムズ 1185号  
2005. 10

### 今井 照

【著 書】 自治体再構築における行政組織と職員の将来像 単著 公人の友社

自立型市町村における地域政策づくり  
共著 福島大学大学院地域政策科学研究科

【論 文】 自治体職員定数削減の構図（上）—社会分権型アウトソーシング論に向けて—  
『自治総研』 通巻322号 2005. 8

自治体職員定数削減の構図（下）—社会分権型アウトソーシング論に向けて—  
『自治総研』 通巻323号 2005. 9

「地方自治の本旨」をめぐる—市民と自治体職員だけが自治を現実化できる」  
『地方自治職員研修』 通巻536号  
2005. 12

市町村合併に伴う自治体政治動向について（2005）—首長選挙、解職、解散等の集計と分析— 『自治総研』 通巻329号  
2006. 3

市町村合併に伴う自治体政治動向について（2005）—首長選挙、解職、解散等の集計と分析— 『全国首長名簿』 2005年版  
2006. 3

【調査報告】 大田区役所における配分定数増減事由調査（1995年度—2005年度）—自治体職員定数削減と当該事務の代替方法に関する研究のために 『行政社会論集』第18巻第2号 第18巻第2号 2005. 10

【書 評】 「自治体改革」から「自治体再構築」への構成転換が意味すること 『地方自治職員研修』 通巻526号 2005. 4

### 上田 真理

【論 文】 被用者保険法適用対象に対する国家規制（1） 行政社会論集 18巻2号  
2005. 10

同上（2） 同上 18巻4号 2005. 3

【書 評】 松本勝明著『ドイツ社会保障論2—年金保険』 社会保障法 20巻 2005. 5

### 小島 定

【著 書】 Ed.by Heinz Rieter, Leonid Schirokolad, J. Zweynert, "Deutsche und russische Oekonomen im Dialog. Wissenstransfer in historischer Perspektive". 共著 Metropolis-Verlag, Marburg "Reception of Max Weber's works in early 20th century Russia" S. 217—238. 2005. 12

【論 文】 チャヤノフ研究からヴェーバー研究へロシア・ユーラシア経済調査資料 890号  
2007. 8

### 下山 憲治

【論 文】 科学性・透明性原則と行政組織構造の法的分析 行政社会論集 18巻2号  
2005. 11

【調査報告】 判例評釈 法学セミナー 609号  
2005. 8

判例評釈 法学セミナー 614号  
2006. 1

### 中井 勝己

【著 書】 レクチャー環境法 共著 法律文化社  
2006. 7

- 【論文】 家電リサイクル法の現状と課題 単著  
立命館大学政策科学 2006. 1

### 中川 伸二

- 【著書】 かかわりの政治学 共著 法律文化社

### 中里見 博

- 【著書】 みんなの憲法24条 共著 明石書店  
セクシュアリティと法 共著 東北  
大学出版会

- 【論文】 憲法「改正」と家族 住民と自治 505  
号 2005. 5

「男らしさ」と「女らしさ」—現代改憲  
論におけるジェンダー— 法律時報臨時  
増刊『憲法改正問題』 2005. 5

ポルノ被害と法規制—ポルノグラフィと  
法をめぐる視座転換をめざして— ジェ  
ンダーと法 2号 2005. 7

現代改憲論における家族条項改変問題  
法律時報 77巻9号 2005. 8

ジェンダー法学の新たな可能性—笹沼、  
菅野報告に関するコメント— 日本労働  
法学誌 106号 2005. 11

平等—24条を中心に— 季刊軍縮地球市  
民 3号 2005. 12

性的盗撮に対する日本および英・米の立  
法動向—ポルノ・買春問題研究会論文  
・資料集 6号 2005. 12

- 【調査報告】 (学界回顧) ジェンダーと法 二宮周  
平、谷田川知恵 法律時報 77巻13号  
2005. 12

「盗撮に関するアンケート」調査結果と  
分析—ポルノ・買春問題研究会論文・  
資料集 6号 2005. 12

- 【学会発表】 ジェンダー法学の新たな可能性—笹沼、  
菅野報告に関するコメント— 日本労働  
法学会 関慶應義塾大学 2005. 5

家族が担う公と私—家族への公的介入—  
民主主義科学者協会法律部会 関岡山大  
学 2005. 11

## 社会・歴史学系

### 阿部 成治

- 【論文】 宮崎市におけるイオンショッピングセン  
ター進出への経過—出口近士、吉武哲  
信— 日本都市計画学会論文集 40—3号  
2005. 11

ドイツにおける道路と建物の立体化に関  
する法制度について—保立透、エルファ

ディンク、ズザンネ、前川和彦、橋本政  
史— 日本都市計画学会論文集 40—3号  
2005. 11

- 【学会発表】 学びながら計画したフライブルクの拡大  
住民参加— 日本建築学会 関近畿大学  
2005. 9. 2

### 加藤 眞義

- 【論文】 伝統工芸技術の伝承と地域社会—苧麻織  
物生産の事例— 菅野仁 福島大学  
地域創造 第17巻第2号 2006. 2

- 【調査報告】 伝統工芸技術の伝承をテーマとする「地  
域活性化」事業に関する社会学的研究  
菅野仁—平成16~17年度科学研究費補  
助金(基盤研究C)研究成果報告書  
2006. 3

### 丹波 史紀

- 【著書】 『第7回精神保健福祉士国家試験問題  
解答・解説集』 共著—へるす出版

- 【調査報告】 調査報告書「自立支援プログラムに関す  
るアンケート調査報告書」—山田壮志郎、  
下村幸仁— 2006. 2

厚生科学研究費補助金政策科学推進研究  
事業—総括研究報告書『貧困・低所得者  
層に対する就労支援と社会的自立に関す  
る開発研究』— 2006. 3

- 【学会発表】 「貧困・低所得者層に対する自立支援プ  
ログラムの政策評価」—日本社会福祉  
学会・東北部会 関福島市— 2005. 7

### 千葉 悦子

- 【著書】 自立型市町村における地域政策づくり  
編集(平成17年度「地域特別研究」担当  
者)—福島大学大学院地域政策研究科  
2006. 3

- 【論文】 大学・短期大学の地域社会連携と社会貢  
献事例の実践構造に関する理論的実証的  
研究(分担「福島大学における社会人教  
育の到達点」)—姉崎洋一、他8名  
北海道大学大学院教育学研究科教育計画  
講座高等教育研究グループ— 2006. 3

- 【調査報告】 福島市生涯学習市民意識調査報告書  
中田スウラ、浅野かおる—福島市教育  
委員会— 2006. 3

- 【学会発表】 農村における自治公民館活動と地域づく  
り—日本村落研究学会 関山梨県笛吹  
市— 2005. 11

### 中辻 享

- 【論文】 ラオス焼畑山村にみられる生計活動の世  
帯差—幹線道路沿いの一行政村を事例と  
して— 地理学評論 第78巻第11号  
2005. 10

## 牧田 実

- 【論文】 「地域自治」とコミュニティ—福島県田村郡三春町の地区まちづくり協会の事例をとおして 『コミュニティ政策』 第3号 2005. 7
- バンコクのスラムにおける地域住民組織—カナカマカーン・チュムチョン・ワット・ユアンクロンランパックの事例 マリー ケオマノータム 『宇都宮大学国際学部研究論集』 第20号 2005. 10
- 【調査報告】 地域内団体の連携とコミュニティの活性化 安瀬一夫、池田早苗、木元正幸 シンクタンクふくしま『TTF MINI REPORT』 No.13 2006. 3
- 東白川郡の観光の現状と課題—宿泊客アンケート調査の分析 過疎・中山間地域経営戦略県南地方会議・福島大学地域創造支援センター『東白川地方過疎・中山間振興実践計画』 2006. 3
- 【学会発表】 地域共同管理と「公共性」—沖縄県宜野湾市を事例に コミュニティ政策学会 第4回大会 関八戸グランドホテル 2005. 7

## 経済学系

### 阿部 高樹

- 【論文】 「福島市の産業構造：産業連関表の試作を通して」 井上健、熊本尚雄 『福島大学地域創造』 第17巻第1号 2005. 9

### 井上 健

- 【論文】 福島市の産業構造：産業連関表の試作を通して 阿部高樹、熊本尚雄 福島大学地域創造 第17巻第1号 2005. 9

### 伊部 正之

- 【論文】 「松川事件 —その概要と現代的意義—」 憲法理論研究会編『“危機の時代”と憲法』(敬文社) 2006. 10

### 大野 正智

- 【論文】 The Choice of Invoice Currency under Uncertainty: Theory and Evidence from Korea Shin-ichi Fukuda Journal of the Korean Economy 6巻2号 2005. 秋号
- 【調査報告】 新しい経済学教育をめざして 学内教員8名(井上、熊本、真田、清水、中村、箱木、藤原、森) 福島大学研究年報創刊号 2005. 12
- 【学会発表】 Trade Credit and the Meltzer Effect: Evidence from Japanese General Trading Companies 日本経済学会 関日本

大学 2005. 5

Trade Credit and the Meltzer Effect: Evidence from Japanese General Trading Companies 日本金融学会 関京都産業大学 2005. 6

Trade Credit and the Meltzer Effect: Evidence from Japanese General Trading Companies Asia-Pacific Economics Association conference 関一橋大学 2005. 7

「貿易契約通貨の決定メカニズム—東アジアにおける『円の国際化』の視点から」 日本金融学会 関大阪大学 2005. 10

### 熊本 尚雄

- 【論文】 誤差修正 VAR モデルによる通貨代替の実証分析—メキシコにおける事例— 熊本方雄 金融経済研究 第22号 2005. 6

為替相場のボラティリティと国際貿易—ブラジルの事例— 熊本方雄 国際開発研究 第14巻・第1号 2005. 6

自己負担率の変化と患者の受診行動 増原宏明、細谷圭 佐藤主光、田近栄治、鶴田忠彦 [編] 『医療介護における世代間格差』所収(第1章) 東洋経済新報社 2005. 7

福島市の産業構造：産業連関表の試作を通して 井上健、阿部高樹 福島大学地域創造 第17巻第1号 2005. 9

為替相場のボラティリティが国際貿易に与える影響—東アジア5ヶ国のケース— 熊本方雄 福田慎一・小川英治 [編] 『国際金融システムの制度設計：通貨危機後の東アジアへの教訓』所収(第3章), 東京大学出版会 2006. 2

Resource Augmenting Technological Progress and Sustainable Development 細谷圭 商学論集 第74巻第3号 2006. 3

### 小島 彰

- 【論文】 社会科で求める読解力・社会的リテラシーとは 社会科教育7月号 553号 2005. 7

【調査報告】 ホッキ貝漁業にみる水産資源管理 東田啓作、阿部高樹、井上健 『福島大学地域創造』第18巻第1号 2006. 9

### 小山 良太

- 【著書】 北海道農業の地帯構成と構造変動 共著 北海道大学図書刊行会 2006. 2

【論文】 北海道における農協改革の課題—全道農

- 協組合員・組合長アンケートの結果から  
～ 単著 北海道農業経済研究 第  
12巻第2号 2005.12
- 農協の組織基盤と事業体制再編に関する  
研究—広域合併農協と連合会機能に注目  
して— 小林国之 協同組合研究  
第24巻第2号(通巻68号) 2005.10
- 国際競争下における軽種馬生産の構造変  
動—日本最大の馬産地、北海道日高・胆  
振地方— 単著 Hippophile No.21  
2005.7
- 合併農協の挑戦・JAひだか東③～個別  
単独投資から地域内連携に転換～ 単著  
ニューカントリー 第52巻第7号、通巻  
616号 2005.7
- 合併農協の挑戦・JAひだか東②～強い  
馬づくりの技術指導と宣伝、集・接客で  
販売振興～ 単著 ニューカントリー  
第52巻第6号、通巻615号 2005.6
- 合併農協の挑戦・JAひだか東①～リス  
ク増す金融特化、営農・経済の収益化模  
索～ 単著 ニューカントリー 第52巻  
第5号、通巻614号 2005.5
- 北海道における馬資源の経済評価と地域  
産業クラスター形成に関する研究 単著  
北海道開発協会助成研究論文集 平成16  
年度 2005.6
- 【調査報告】** 地域における担い手への農地利用集積の  
取り組みについて—福島県昭和村—  
単著 農業構造改善基礎調査報告書  
2005年度 2006.3
- Institutional Characteristics of Japanese  
Agricultural Cooperatives & Current State  
単著 General Management for De-  
velopment and Planning II 2005年度  
2005.10
- 馬資源を活用した地域産業クラスターの  
可能性—北海道日高地方における軽種馬  
産業と地域文化— 単著 開発こう  
ほう No.511 2006.2
- 【学会発表】** 国際競争下における地域産業の構造転換  
と付加価値創造—北海道日高地域のウマ  
産業を対象として— 政治経済・経済  
史学会東北部会例会 磐梯高原リゾート  
インボなり 2005.7
- 佐野 孝治**
- 【論 文】** 『「構造調整」期における韓国济州道の柑  
橘生産』 単 『商学論集』 第74巻第  
1号 2005.10
- 「韓国济州道における柑橘生産の『農業  
産業化』」 単 『商学論集』 第74巻第
- 2号 2006.1
- 十河 利明**
- 【著 書】** 現代アメリカ経済—アメリカン・グロー  
バリゼーションの構造 共著 日本  
評論社
- 【訳書・翻訳】** 2005米国経済白書 共訳 毎日新聞  
社エコノミスト 第83巻第28号 2005.5
- 初沢 敏生**
- 【論 文】** わが国における象がん製造業の生産構造  
単著 人間発達文化学類論集 1  
2005.6
- アナグリフ画像を利用した中学校での地  
理授業 後藤秀昭、他 福島大学教  
育実践研究紀要 48 2005.6
- 地場産業産地における革新の特徴 単著  
経済地理学年報 51巻4号 2005.12
- 【学会発表】** 地場産業における「産地」の意味 経  
済地理学会 中央大学 2005.5
- 山形仏壇産地の特性と課題 立正地理  
学会 国立正大学 2005.6
- 北海道在住陶芸家の独立までの「学習」  
の特徴 北海道地理学会 函北海学園  
大学 2005.6
- 伝統工芸の保存のために行政の果たす役  
割 日本地理教育学会 函専修大学  
2005.8
- 福島県土湯こけし産地の存立基盤の変化  
東北地理学会 函東北公益文科大学  
2005.10
- 岡山県備前陶器産地の特性と人材養成  
人文地理学会 函九州大学 2005.11
- 森 良次**
- 【学会発表】** バーデンの産業振興政策—営業自由導入  
後の営業教育を中心に— ドイツ資本  
主義研究会(第二次) 函専修大学  
2005.6

## 経営学系

### 飯田 史彦

**【著 書】** 生きがいの創造Ⅱ 単著 PHP研  
究所

ソウルメイト 単著 PHP研究所

親と子で語る人生論 単著 PHP研  
究所

**【論 文】** ホリスティック・ヒューマニゼーション  
による温泉地の活性化戦略 下平尾、

伊藤、柳井編 地域産業の再生と雇用  
・人材 第10章 2005. 4

2006. 3

### 上野山達哉

【論文】 Exploring the feature of Japan's thirties white-collars developing the boundaryless career Hideo Misaki Paper presented at EGOS 21st conference 2005. 7

日本の30代ホワイトカラーのキャリア意識：『境界のないキャリア』概念の適用可能性検討のための探索的分析 三崎秀央 商学論集(福島大学) 第74巻第4号 2006. 3

【学会発表】 Exploring the feature of Japan's thirties white-collars developing the boundaryless career EGOS 21st conference ⑩Berlin, Germany 2005. 7

### 川上 昌直

【著書】 財務マネジメントー企業価値のリスクと評価ー 共著 中央経済社

【論文】 戦略リスク・マネジメントによる映画ビジネスの米日比較 国際ビジネス研究学会年報 2005. 10

現代経営環境におけるトータルリスクとリターンの関係性ーわが国企業サンプルの実態からー 商学論集 74巻4号 2006. 3

【学会発表】 企業価値とリスク評価について 日本経営財務研究学会第29回全国大会 ⑩兵庫県立大学 2005. 10

### 櫻田 涼子

【論文】 「キャリア・プラトー現象に関する理論的一考察」 『六甲台論集ー経営学編ー』 第52巻第3号、1ー17頁 2005. 12

【調査報告】 「人事制度や組織の動向に関するアンケート実態調査報告書」 HRMプロジェクト人的資源管理研究室 2005. 1

【学会発表】 「組織フラット化に伴うインセンティブ構造の変容ーキャリア・プラトー現象を通じてー」 日本経営学会関西西部会第537回例会 ⑩大阪商業大学 2005. 11

### 山浦 廣海

【著書】 国際貿易をめぐる諸問題と解決への道 共著 白桃書房 2005. 6

現代保険学の諸相 共著 成文堂 2005. 11

【学会発表】 WTO10年の転機と国際通商秩序の再編成 WTO Forum ⑩青山学院大学 2005. 12

WTO香港閣僚会議の意義とWTO改革の必要性 日本貿易学会 ⑩日本大学

## 数理・情報学系

### 栗原 秀幸

【著書】 学力向上を図る算数科教材研究 共著 明治図書出版株式会社 2005. 11

学力向上を図る数学科教材研究 共著 明治図書出版株式会社 2005. 9

【論文】 子どもの日常に基礎をおいたカリキュラムの創造(1) 数学教育学会誌臨時増刊 2006. 3

『代数的思考』育成に関わる米国の取り組みとそれが我が国の教育研究へ与える示唆ー小中高の関連性を重視した教育研究の立場から 町田彰一郎 数学教育学会誌臨時増刊 2005. 6

学力低下に関わる大学生の実態 情報リテラシー教育研究報告 Vol.2, No.3 2005. 11

ある小学校における、職員室LANを使った情報共有の例 田仲裕一 情報リテラシー教育研究報告 Vol. 2, No. 03 2005. 11

数学の学力低下に関わる大学生の実態(補足) 情報リテラシー教育研究報告 Vol.2, No.4 2006. 5. 1

【学会発表】 教員養成に係わる数学者の役割 数学教育学会 ⑩岡山大学 2005. 9

### 篠田 伸夫

【学会発表】 専門教育用 Mac OS X教室の構築と運用(2) 篠田伸夫 平成17年度情報処理教育研究集会 ⑩九州大学 2005. 11

定点観測システムの構築 篠田伸夫 日本産業技術教育学会第23回東北支部大会 ⑩岩手大学 2005. 11

### 董 彦文

【学会発表】 A Comparative Study of Possibilistic Programming Model for Vehicle Routing Problem with Fuzzy Demands International Conference on Logistics & Supply Chain Management 2006 ⑩Hong Kong, 2006.1

ファジィ配送スケジューリングモデルの有効性に関する考察 日本経営工学会 平成17年度春季大会 ⑩東京 2005. 5

### 中村 勝一

【論文】 A Support Method for Programming Education Based on Analysis of Each

Learner's Mental States Masataka Egawa, Kazuhiko Sato, Zixue Cheng  
Soft Computing As Transdisciplinary Science And Technology (Proc. The Fourth IEEE International Workshop on Soft Computing as Transdisciplinary Science and Technology), pp.1236-1245, Springer 2005. 5

A Visualization Method of Relations Among Knowledge-Information for Research Activities Haohiro Hayashi, Setsuo Yokoyama, Youzou Miyadera  
Proc. The 11th International Conference on Parallel and Distributed Systems, Vol. 1, pp. 702-708, IEEE Computer Society Press 2005. 7

A Visualization System for Program Modularization Education Keisuke Suzuki, Yokoyama Setsuo, Youzou Miyadera  
Proc. 11th International Conference on Human-Computer Interaction (CD-ROM), Mira Digital Publishing, 2005. 7

A Visualization System for Organizing and Sharing Research Information Youzou Miyadera, Naohiro Hayashi, Setsuo Yokoyama  
Proc. 9th International Conference on Knowledge-Based Intelligent Information and Engineering Systems, in LNAI 3683, pp. 1288-1295, Springer 2005. 9

【学会発表】 研究情報の整理・共有を目的とした視覚化システム 電子情報通信学会教育工学研究会 関名古屋 2005. 6

視聴覚障害者の授業支援を目的とした視点移動分析 第12回日本教育メディア学会年次大会 関東京 2005. 10

情報検索の継続性を考慮した情報収集支援システムの開発 電子情報通信学会教育工学研究会 関香川 2006. 3

検索シーンを考慮したブックマーク情報共有支援システムの提案 電子情報通信学会教育工学研究会 関香川 2006. 3

調整者の判断支援を考慮した会議日程調整システムの開発 情報処理学会東北支部平成17年度第5回研究会 関米沢 2006. 3

検索シーンを考慮したブックマーク情報共有支援システムの開発 情報処理学会東北支部平成17年度第5回研究会 関米沢 2006. 3

情報検索の継続性を考慮した情報収集支援システムの提案 情報処理学会東北支部平成17年度第5回研究会 関米沢

2006. 3

## 中山 明

【論文】 ON TWO WEIGHTED GENERALIZED ITERATIVE SCALING METHODS  
With Kyoji Hoshino 福島大学経済学会, Discussion Paper Series No. 41 2005. 11

【学会発表】 A WEIGHTED GENERALIZED ITERATIVE SCALING METHOD FOR ENTROPY MAXIMIZATION 共著 (星野 珙二) オペレーションズ・リサーチ学会 関神戸学院大 2005. 9

線形制約をもつ対数線形型目的関数最適化問題とその周辺 単独 日本OR学会, 特設研究部会「食料・環境問題における数理的手法」 関東北大学 2005. 11

## 星野 珙二

【論文】 On Two Weighted Generalized Iterative Scaling Method 中山明 福島大学経済学会 Working Paper Series No. 41 2005. 11

発注方式の選択と統合に関する研究 単著 学位(博士)請求論文(受理) 2006. 1

【学会発表】 A Weighted Generalized Iterative Scaling for Entropy Maximization 中山明 オペレーションズ・リサーチ学会 関神戸学院大学 2005. 9

## 三浦 一之

【学会発表】 Convex Drawings of Plane Graphs of Minimum Outer Apices GD2005 関アイルランド リムリック 2005. 9

Convex Drawings of Plane Graphs of Minimum Outer Apices コンピューテーション研究会 関仙台 東北大学 2005. 10

## 横山 雅夫

【論文】 段取を伴う加工作業と組立作業を有する2段階生産システムにおけるスケジューリング 日本経営工学会論文誌 Vol. 56, No. 1, pp. 19-28 2005. 4

## 機械・電子学系

## 石原 正

【著書】 Control Systems Design : A New Framework 共著 Springer

【論文】 Integral controller design based on disturbance cancellation : Partial LTR approach for non-minimum phase plants HJ.Guo



- and H.Takeda Automatica 41·12  
2005. 12
- 【学会発表】** Target duality in LTR using a reduced order observer CACS Automatic Control Conference ㊦Tainan,Taiwan 2005. 11
- LTR design of integral controllers for time-delay plants using disturbance cancellation, Joint Conference of IEEE Conference of Decision and Control and European Control Conference ㊦Seville, Spain 2005. 12
- A design of disturbance cancellation controllers via singular partialLTR International Conference on Mechatronics and Information Technology (ICMIT) ㊦Chongqing,China 2005. 9
- Matching condition for sampled-data critical control systems with input delay International Conference on Mechatronics and Information Technology (ICMIT) ㊦Chongqing,China 2005. 9
- 岡沼 信一**
- 【論 文】** Consideration of the Fundamental Characteristics of a Sinusoidal-Wave Output Inverter Utilizing Magnetic Oscillation Journal of the Magnetics Society of Japan Vol. 30, No. 2 2006. 3
- 【学会発表】** 磁気発振を利用した正弦波出力インバータのSPICEシミュレーション 第29回日本応用磁気学会学術講演会 ㊦信州大学工学部 2005. 9
- 磁気発振を利用した正弦波出力インバータの開発 平成17年度第2回機能性材料・製造プロセス研究会 ㊦福島県ハイテクプラザ 2006. 2
- 小沢 喜仁**
- 【著 書】** 機械工学便覧基礎編 α3 「材料力学」 共著 丸善
- 【論 文】** Mechanical Behavior of Eco-friendly Composite Materials in Temperature Environmental Conditions Proceedings of The Sixth International Congress on Thermal Stresses Vol. 2 2005. 5
- Development of Echo-Friendly Composite Materials with Bacterial Cellulose Tokio KIKUCHI Proceedings of The 5th Japan-Korea Joint Symposium on Composite Materials,(2005-10) 2005. 10
- 【学会発表】** Mechanical Behavior of Echo-Friendly Composite Materials in Temperature Environmental Conditions 単著
- Journal of Thermal Stresses ㊦Vienna University of Technology,Wien 2005. 5
- 温度環境下にある天然繊維強化有機複合材料の機械的特性 共著 日本機械学会 2003年度年次大会 ㊦電気通信大学(調布市) 2005. 9
- Development of Echo-Friendly Composite Materials with Bacterial Cellulose 共著 日本複合材料学会 ㊦愛媛大学工学部(松山市) 2005. 10
- 天然素材を強化繊維とする複合材料の機械的特性に及ぼす温度の影響 共著 日本機械学会M&M2005、材料力学カンファレンス ㊦九州大学元岡キャンパス(福岡市西区) 2005. 11
- 環境にやさしい複合材料の製作と機械的特性 共著 日本産業技術教育学会 第23回東北支部大会 ㊦岩手大学学生センター(盛岡市) 2005. 11
- 柴原 哲太郎**
- 【学会発表】** 電子記録カードを用いた療育システムと障害予防: 1) 頭部画像 糸数直哉、高嶋幸男、他5名と共同発表 重症心身障害児学会 ㊦国立オリンピック記念青少年総合センター 2005. 9
- 高橋 隆行**
- 【著 書】** 新版 ロボット工学ハンドブック 共同執筆 コロナ社
- 【論 文】** 緩衝機能を有する衝突探知システムを用いたマニピュレータの危害力の低減 鄭聖熹、高橋隆行、庄司道彦、中野栄二 日本ロボット学会誌 vol. 23, no. 8 2005. 11
- 【学会発表】** The Development of a Service Manipulator System for Simultaneous Realization of High Safety and Dexterity 共著 The 2005 International Conference on Mechatronics and Information Technology(ICMIT 2005) ㊦Chongqing, China 2005. 9
- Research on a Human-Symbiotic Robot using Inverted Pendulum-type Mobile Base 共著 The 2005 International Conference on Mechatronics and Information Technology(ICMIT 2005) ㊦Chongqing,China 2005. 9
- Robust Self-Localization of Mobile Robots based on Sensitivity in Dynamically Changing Environment 共著 The 2005 International Conference on Mechatronics and Information Technol-

ogy(ICMIT 2005) ㊦Chongqing,China  
2005. 9

A New Design Concept of Robotic Interface for the Improvement of User Familiarity 共著 The 2005 International Conference on Mechatronics and Information Thechnology(ICMIT 2005) ㊦Chongqing,China 2005. 9

Cycling Chair: a novel vehicle for the lower limbs disabled 共著 The 2005International Conference on Mechatronics and Information Thechnology(ICMIT 2005) ㊦Chongqing,China 2005. 9

A Novel Vehicle for Lower Limbs Disabled using Leg Driven Mechanism 共著 Proceedings of Robotics and Automation Confernce 2006 ㊦Cebu 2006. 3

車輪倒立振り型人間共存ロボットのシステムコンセプトと設計 共著 第23回日本ロボット学会学術講演会予稿集 ㊦慶応大学 2005. 9

農業機械の自動運転のための自己位置検出 共著 第23回日本ロボット学会学術講演会予稿集 ㊦慶応大学 2005. 9

ロボットアバタを用いたユーザ親和性向上手法の提案 共著 第23回日本ロボット学会学術講演会予稿集 ㊦慶応大学 2005. 9

超音波アレイセンサによる視覚障がい者のための障害物検知手 共著 計測自動制御学会東北支部第226回研究集会資料 ㊦東北学院大学工学部 2005. 12

F E Sサイクリングチェアの開発 共著 第44回日本生体医工学会大会(日本エム・イー学会) 予稿集 ㊦つくば国際会議場 2005. 4

## 福田 一彦

【論 文】 学童・学生の睡眠の実態とその問題点. 単著 小児看護 28,11 2005

Emotions during sleep paralysis and dreaming. 単著 Sleep and Biological Rhythms 3 2005

支援のための人間理解—生体リズムと人間支援 単著 計測と制御 45,5 2006

睡眠リズムと精神発達 単著 神経内科 64,3 2006

学校教育と眠り 単著 睡眠医療 1,1 2006

Does TV viewing cause delayed and/or irregular sleep-wake patterns? Asaoka, S.,Fukuda,K.,Tsutsui,Y.,and Yamazaki,K. Sleep and Biological Rhythms 4 2006

【調査報告】 睡眠リズムへの積極的介入による心身健康改善効果の有効性 分担執筆 福島大学共生システム理工学類・福祉保健医療技術プロジェクト第一次中間報告, 福島大学理工学群共生システム理工学類, 共生のシステム vol.1 2006

【学会発表】 音声の「ゆらぎ」と精神疲労について 第23回日本生理心理学会 ㊦愛知 2005. 5

高校生の睡眠習慣と心身健康の関連性 第23回日本生理心理学会 ㊦愛知 2005. 5

日中の短時間仮眠がエラー反応の脳内モニタリングに与える影響 第23回日本生理心理学会 ㊦愛知 2005. 5

Circadian sleep-wake rhythm emerges in newborn infants around the 46th week after conception. The 19th annual meeting of the associated professional sleepsocieties ㊦Denver,USA 2005. 6

高校1年生におけるライフスタイルと心身健康の関連性 第30回日本睡眠学会 ㊦宇都宮 2005. 7

大学生の就床時刻と関連する活動について 第30回日本睡眠学会 ㊦宇都宮 2005. 7

2005,虚偽検出(GKT)の検出成績に及ぼす情動の影響 第69回日本心理学会 ㊦東京 2005. 9

大学生における生活リズム(3) —大学生の就床時刻後退と関連する日中の活動について— 第69回日本心理学会 ㊦東京 2005. 9

夕方の仮眠は日中の心身の状態にどのような影響を及ぼしているのか 第12回日本時間生物学会 ㊦つくば 2005.11

高校生の睡眠習慣と日中の状態—特に睡眠時間の不規則性が日中の不定愁訴に及ぼす影響について— 第12回日本時間生物学会 ㊦つくば 2005.11

メロディ認知に影響を及ぼす音列構成アルゴリズム 第24回日本生理心理学会, 広島 ㊦広島 2006. 5

反社会性人格傾向と事象関連電位の特徴 第24回日本生理心理学会, 広島 ㊦広島 2006. 5

夜間における異なる波長での光照射が、

主観的睡眠感および睡眠覚醒リズムに与える影響 第24回日本生理心理学会, 広島 函広島 2006. 5

活動の規則性と朝型-夜型度との関連 第24回日本生理心理学会, 広島 函広島 2006. 5

通常の生活下において、波長の異なる光暴露が睡眠覚醒リズムにどのような影響を及ぼすのか 第31回日本睡眠学会 函滋賀 2006. 6

昼間睡眠が保育園児の心身健康及び養育者の心身健康に与える影響 - 保育園におけるアクチログラム, 睡眠日誌を用いた実証的検討 - 第31回日本睡眠学会 函滋賀 2006. 6

スポーツ選手の練習時間帯の違いが睡眠に及ぼす影響 第31回日本睡眠学会 函滋賀 2006. 6

## 二見 亮弘

【論文】 Sensory Supported FES Control in Gait Training of Incomplete Spinal Cord Injury Persons Imre Cikajlo, Zlatko Matjacic, Tadej Bajd, and Ryoko Futami Artificial Organs Vol.29, No.6, pp.459-461 2005

Joint Angle Control by FES using a Feedback Error Learning Controller K.Kurosawa, R.Futami, T.Watanabe, and N.Hoshimiya IEEE Transactions on Neural Systems & Rehabilitation Engineering Vol.13, No.3, pp.359-371 2005

【学会発表】 Application of Local EMG-Driven FES to Incompletely Paralyzed Lower Extremities R.Futami, K.Seki, T.Kawanishi, T.Sugiyama, I.Cikajlo and Y.Handa 10th Annual Conf. of the International FES Society 函Montreal, Canada 2005. 7

Temporal Resolution of the Impedance Locus Measurement using Digitally Constructed Current Waveform Takenori Fukumoto, Gwang-Moon Eom, Shigeo Ohba, Ryoko Futami, and Nozomu Hoshimiya International Conference on Mechatronics and Information Technology 函Chongqing, China 2005. 9

FES Control for hemiplegic and paraplegic patients (Plenary Lecture) Ryoko Futami International Conference on Mechatronics and Information Technology 函Chongqing, China 2005. 9

視覚野応答の時間特性を考慮した輝度弁別神経回路モデル 岩泉, 加納, 二見

電子情報通信学会ニューコンピューティング研究会 函仙台 2005. 5

局所的筋電駆動型FES制御における被験者の学習について 杉山, 二見, 関, 渡邊, 吉澤 第12回日本FES研究会大会 函秋田 2005. 12

## 山口 克彦

【論文】 Monte Carlo Simulation of Barkhausen Noise for Micro Magnetic Clusters Shinya Tanaka, Osamu Nittono, Koji Yamada and Toshiyuki Takagi IEEE TRANSACTIONS ON MAGNETICS VOL.41 pp.1536-1539. 2005. 11

鉄鋼材の劣化診断システムの開発 入戸野修 検査技術 Vol.10 pp.26-33 2005. 11

Analysis of Barkhausen noise using Monte Carlo simulation for nondestructive evaluation Shinya Tanaka, Hiroko Watanabe, Osamu Nittono, Koji Yamada and Toshiyuki Takagi Journal of Materials Processing Technology VOL.161 pp.338-342 2005. 8

【学会発表】 Monte Carlo simulation for magnetic dynamic processes of micro magnetic clusters with local disorder Katsuhiko Yamaguchi, Shinya Tanaka, Osamu Nittono, Koji Yamada, Toshiyuki Takagi 5th International Symposium on Hysteresis and Micromagnetic Modeling (HMM 05) 函ハンガリー 2005. 5

Monte Carlo Simulation for Magnetic Dynamic Process of Deformed Micro Magnetic Clusters Katsuhiko Yamaguchi, Shinya Tanaka, Osamu Nittono, Koji Yamada and Toshiyuki Takagi The 15th Conference on the Computation of Electromagnetic Fields (COMPU-MAG2005) PC1-9(2005). 函中国 2005. 6

New residual stress detector using angle resolved Barkhausen noise Katsuhiko Yamaguchi, Shinya Tanaka, Osamu Nittono, Koji Yamada and Toshiyuki Takagi The 3rd International Conference on Mechatronics and Information Technology (ICMIT 2005) JSSP 06 函中国 2005. 9

## 物質・エネルギー学系

### 猪俣 慎二

【論文】 実験室の省スペース化に役立つ実験装置、

電子式スライダックの製作と活用 荻野博 化学と教育 54巻 2006. 2

新しい教育法—マイクロスケール化学の現状と課題 荻野博, 荻野和子 放送大学研究年報 23号 2005. 11

【調査報告】 河川水における有機汚染物質の調査 高安徹、長谷部亨 共生のシステム 2 2006. 3

【学会発表】 亜鉛硫黄錯体 ZnS<sub>6</sub> (tmeda) (tmeda=N, N', N''-ユーテトラメチルエチレンジアミン) とジエチルジチオカルバミン酸ナトリウムの反応 第55回錯体化学討論会 関新潟 2005. 9

## 金澤 等

【論文】 Influence of Purity of N-Carboxy Amino Acid Anhydride Crystals on their Reactivity A.Inada,N.Kawana Bulletin of the Faculty of Human Development and Culture,Fukushima Univ.1 2005

Removal of Organic Compounds in Water by Fiber.1 N.Kawana Bulletin of the Faculty of Human Development and Culture,Fukushima Univ.1 2005

「漂白剤は有色物質をどのように分解するのか? 次亜塩素酸ナトリウムによるアゾ染料の分解」 繊維学会誌 No. 11, Vol. 61 2005. 11

【学会発表】 「N-カルボキシアミノ酸無水物の反応性再考 (11) 分子量分布の狭いポリペプチドの生成」 稲田文、川奈誠和 第54回高分子学会年次大会 関横浜 2005. 5

「これまで不可能とされた高分子量制御タンパク質素材の製造」 稲田文 第50回日本家政学会東北・北海道支部大会 関郡山 2005. 9

「衣料用繊維素材の再利用による水中汚染物質の除去」 川奈誠和 第50回日本家政学会東北・北海道支部大会 関郡山 2005. 9

N-カルボキシアミノ酸無水物の反応性再考 (12) 分子量分布の狭いポリペプチドの生成 稲田文、川奈誠和 第54回高分子討論会 関山形 2005. 9

アミノ酸NCAの反応性再考 (14) 約60年間に渡るアミノ酸NCAの反応性の誤解と固相反応の有利性 稲田文、川奈誠和 第13回有機結晶部会シンポジウム 関京都 2005. 10

ポリエチレン・ポリプロピレン等の親水

化による用途の拡大 プラスチック成型加工学会第13回秋季大会 関仙台 2005. 11

## 佐藤 理夫

【論文】 畜産廃棄物の資源化 Symbiotic Systems Science Vol.2 2006. 3

【学会発表】 多孔質基板上への化合物半導体結晶成長機構 第53回応用物理学関係連合講演会 関武蔵工業大学 (東京) 2006. 3

廃食用油直接燃焼型コージェネレーションシステム 第53回応用物理学関係連合講演会 関武蔵工業大学 (東京) 2006. 3

## 島田 邦雄

【論文】 Magnetic rubber having magnetic clusters composed of meat particles Shigemitsu SHUCHI and Hideto KANNO Journal of Intelligent Material Systems and Structures Vol.16,2005,pp.15-20 2005. 1

磁気反応流体を用いた粘性ダンパの可変減衰能に関する実験研究 菅野秀人、小川淳二 日本機械学会論文集 71巻 703号 B編, 2005, pp.869-876 2005. 3

Magnetic characteristics of magnetic compound fluid(MCF)under DC and AC magnetic fields Hideo Oka Journal of Magnetism and Magnetic Materials Vol.290/291,2005,pp.804-807 2005. 4

Magnetic cluster and its applications S.Shuchi,H.Kanno,Y.Wu.,S.Kamiyama Journal of Magnetism and Magnetic Materials Vol.289,2005,pp.9-12 2005. 4

Shape response of functional fluid drops in alternating magnetic fields S.Sudo, A.Nakagawa,H.Nishiyama Journal of Magnetism and Magnetic Materials Vol.289,2005,pp.321-324 2005. 4

Float polishing technique using new tool consisting of micro magnetic clusters Y.Wu,Y.Matsuo,K.Yamamoto Journal of Materials processing Technology Vol.162-163,2005,pp.690-695 2005. 6

MEASUREMENT OF INTERACTIVE SURFACE FORCE OF SUSPENDED PARTICLES IN ER AND MR SUSPENSIONS UNDER ELECTRIC AND MAGNETIC FIELD A.SHIBAYAMA, T. OTOMO,T.FUJITA International Journal of Modern Physics B Vol.19,Nos.7-9,2005,pp.1177-1183 2005. 9

- PREPARATION AND ABRASION PROPERTIES OF MAGNETO-RHEOLOGICAL FLUID OF DISPERSED SILICA-COATED IRON A.SHIBAYAMA,T.OTOMO,Y.AKAGAMI,T.FUJITA International Journal of Modern Physics B Vol.19,Nos.7-9,2005,pp.1121-1127 2005. 9
- Pressure Characteristics of ER Damper with Different Piston Velocity Hiroshi Yamaguchi,Daisuke Inoue,Shigemitsu Shuchi and Hideya Nishiyama International Journal of Modern Physics B Nos.7-9,2005,pp.1598-1604 2005. 9
- Magnetism and self-assembled structure utilizing micro- and nano-particles Atsushi Shibayama,Eiichiro Yuze,Hitoshi Saitoh and Syunji Ishio Journal of Metastable and Nanocrystalline Materials Vol.24-25,2005,pp.121-124 2005. 9
- An approach to surface finishing using a newly developed magnetic polishing liquid Y.Wu,Y.C.Wong,M.Kato International Journal for Manufacturing Science and Technology 2005,pp.46-54 2005. 10
- Effects of particles blend ratio on surface quality in surface polishing using magnetic polishing liquid(MPL) Y.Wu,Y.C.Wong and M.Kato Key Engineering Materials Vols.291-292,2005,pp.337-342 2005. 10
- New polishing technique using new polishing tool consisting of micro magnetic clusters in float polishing Yongbo Wu,Yoshio Matsuo,Keita Yamamoto Proceedings of the Worldwide Congress on Advances in Materials and Processing Technologies pp.547-550 2005. 5
- Flow characteristics of ER Fluid in the Model Damper Hiroshi YAMAGUCHI, Kunio SHIMADA,Xinrong ZHANG Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic,Mechanics and Biomedical Problems pp.388-389 2005. 9
- Thermomagnetic convection in a 2D rectangular box with an inner cooler Shigemitsu Shuchi,Kunio Shimada and Hiroshi Yamaguchi Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic,Mechanics and Biomedical Problems pp.196-197 2005. 9
- A heat conduction approach to a parallel duct-type energy conversion device utilizing a magnetic fluid Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic,Mechanics and Biomedical Problems pp.190-191 2005. 9
- A new magnetic polishing liquid (MPL) proposed for contact force-free surface finishing : part 2,detailed performances in metal surface finishing Yongbo Wu,Kenji Tetsuka,Masana Kato and Yat Choy wong Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic ,Mechanics and Biomedical Problems pp.152-153 2005. 9
- A new magnetic polishing liquid (MPL) proposed for contact force-free surface finishing : part 1,behaviour under magnetic field and fundamental performance in metal surface finishing Yongbo Wu,Kenji Tetsuka,Masana Kato and Yat Choy wong Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic,Mechanics and Biomedical Problems pp.150-151 2005. 9
- Polishing Inner Capillary Walls by a Magnetic Compound Fluid Hitoshi NISHIDA and Makoto GOTO Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic,Mechanics and Biomedical Problems pp.118-119 2005. 9
- Relationship between Abrasive Grains and Rotational Magnetic Field in Polishing of Inner Capillary Walls using Magnetic Compound Fluid(MCF) Hitoshi NISHIDA and Makoto GOTO Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic,Mechanics and Biomedical Problems pp.116-117 2005. 9
- Vibration response of a silicon rubber membrane containing a magnetic compound fluid induced by an impulsive magnetic field Yasushi Ido,Shin Ishida Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic,Mechanics and Biomedical Problems pp.54-55 2005. 9
- Relation between formation of cluster and magnetic property in magnetic compound fluid(MCF)and new cluster model Shigemitsu Shuchi Proceedings of 12th International Symposium on Interdis-

- ciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems pp.32-33 2005. 9
- Possibility of utilizing MCF in viscous damper of passive type Hideto Kanno Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems pp.26-27 2005. 9
- Investigation of efficiency of a parallel duct-type energy conversion device utilizing a magnetic fluid roceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems pp. 24 - 25 2005. 9
- MR fluid damper composed of different size of particles Hideto Kanno, Junji Ogawa Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems pp.20-21 2005. 9
- Response of a silicon rubber membrane containing a magnetic compound fluid to progressive magnetic field Yasushi Ido, Shin Ishida, Shinichi Ohokubo Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems pp.16-17 2005. 9
- Therno-magnetic natural convection in rectangular box H. Yamaguchi, T. Yonemura and S. Shuchi Proc. of 16th Int. Sym. on Transport Phenomena, 2005 2005. 8
- New polishing method with MCF (Magnetic Compound Fluid) polishing tool Y. Wu, M. Kato, J. Jiang, X. Wang, and Y. C. Wong Proc. Int. Conf. Precision Eng. And Micro/Nano Tecvh. In Asia 2005. 11
- 【調査報告】** 磁気混合流体による新研磨加工の検討 ツールエンジニアリング, 大河出版 5月号, pp.90-94 2005. 5
- マイクロ・ナノ工具の開発と次世代型ナノ・マイクロ加工、研磨における研究 大澤科学技術振興財団事業年報 No. 13, pp.1-5 2005. 10
- 産学官共同研究、超微細研磨装置の開発について ANNALS紀要 (インテリジェント・コスモス学術振興財団) 10巻, pp.9-12 2006. 1
- 【学会発表】** 内部に冷却体をもつ矩形容器内における磁性流体の熱磁気対流 第17回電磁力関連のダイナミックスシンポジウム 2005. 6
- Flow characteristics of ER Fluid in the Model Damper Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems 2005. 9
- Thermomagnetic convection in a 2D rectangular box with an inner cooler Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems 2005. 9
- A heat conduction approach to a parallel duct-type energy conversion device utilizing a magnetic fluid Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems 2005. 9
- A new magnetic polishing liquid (MPL) proposed for contact force-free surface finishing: part 2, detailed performances in metal surface finishing Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems 2005. 9
- A new magnetic polishing liquid (MPL) proposed for contact force-free surface finishing: part 1, behaviour under magnetic field and fundamental performance in metal surface finishing Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic 2005. 9
- Polishing Inner Capillary Walls by a Magnetic Compound Fluid Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems 2005. 9
- Relationship between Abrasive Grains and Rotational Magnetic Field in Polishing of Inner Capillary Walls using Magnetic Compound Fluid (MCF) Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems 2005. 9
- Possibility of utilizing MCF in viscous damper of passive type Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechan-

ics and Biomedical Problems ㊦オーストリア 2005. 9

Investigation of efficiency of a parallel duct-type energy conversion device utilizing a magnetic fluid Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems ㊦オーストリア 2005. 9

MR fluid damper composed of different size of particles Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems ㊦オーストリア 2005. 9

Response of a silicon rubber membrane containing a magnetic compound fluid to progressive magnetic field Proceedings of 12th International Symposium on Interdisciplinary Electromagnetic, Mechanics and Biomedical Problems ㊦オーストリア 2005. 9

アモルファス混合流体による磁気流体研磨に関する研究 日本機械学会2005年度年次大会 ㊦東京 2005. 9

3次元超精密研磨装置の開発 成形加工シンポジウム ㊦仙台 2005. 11

## 杉森 大助

【論文】 Partial purification and some properties of a phospholipase C from *Pseudomonas* sp. strain KS3.2 Masatoshi Nakamura Biosci. Biotechnol. Biochem. 70:2 2006. 2

2-フェニルプロピオン酸メチルに対して (R)-選択的加水分解能を有する新奇エステラーゼの探索と精製 福島大学地域創造 17:2 2006. 2

【調査報告】 油脂含有排水による水質汚染を防止するための微生物処理技術の開発 自然共生・再生研究 2 2006. 3

産業用工学活性リパーゼの開発 (財)関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団平成17年度助成研究報告書 2006. 3

【学会発表】 *Acinetobacter calcoaceticus* 4-1-5株によるインドールの7-ヒドロキシインドールへの水酸化 化学系学会東北大会 ㊦東北大学 2005. 9

バイオディーゼル燃料生産用リパーゼおよびsn-2位特異的リパーゼ産生菌のスクリーニング 石油学会 ㊦マリオス, 盛岡 2005. 10

動物性油脂分解微生物のスクリーニング 日本生物工学会 ㊦つくば国際会議場, つくば 2005. 11

*Pseudomonas* sp. KS3, 2株由来ホスホリパーゼCの部分精製と諸性質 日本農芸化学会 ㊦京都女子大学, 京都 2006. 3

## 高貝 慶隆

【論文】 "Adsorption and desorption properties of trans-resveratrol on cellulose cotton" Y. Takagai, T. Kubota, H. Kobayashi, T. Tashiro, A. Takahashi, S. Igarashi Analytical Sciences 21 pp183-186 2005

“高倍率濃縮システムの構築による微量成分の分離分析に関する研究” 高貝慶隆 分析化学 54 pp333-334 2005

【学会発表】 Powerful preconcentration method for ultra trace amounts of polycyclic aromatic hydrocarbons and its application to the environmental analysis Y. Takagai, S. Igarashi 79th American Chemical Society Colloid and Surface Science Symposium ㊦Clarkson University, Potsdam NY, USA 2005. 6

Adsorption and desorption properties of polyphenol derivatives on cellulose cotton Y. Takagai, T. Kobayashi, S. Igarashi 2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies ㊦Hawaii, USA 2005. 12

【特許】 高原子価金属イオンの捕集・検出剤 高貝慶隆、五十嵐淑郎、佛願道男 特願2005-363924

## 高安 徹

【調査報告】 「河川水における有機汚染物質の調査」 高安徹、猪俣慎二、長谷部亨 高安徹、猪俣慎二、長谷部亨 2 2006. 2

【学会発表】 8-アミノ-10-ヒドロキシシクロヘプタ [b] ピリミド [5,4-d] ピロールの合成と性質 高安徹 日本化学会 ㊦船橋 2006. 3

## 入戸野 修

【著書】 金属加工 (材料の科学と工学の基礎) 単著 教育職員免許法認定講習会テキスト 2006

【論文】 The effect of oxygen partial pressure on the magnetoresistance of Co(-Pt)-ITO thin films Wanti Ekawati, J. Shi, Y. Nakamura and O. Nittono Trans. Mat. Res. Soc. Jpn vol. 30(4) pp.1027~1030 2005. 8

Dopping Effect on electrical and galvanomagnetic properties of flash-evaporated thin InSb films Md Taher and O.Nitto Proc.Bio-inspired Computation BIC'5 pp.9/1~9/6 2005. 7

鉄鋼材の劣化診断システムの開発 山口克彦、入戸野修 検査技術 vol.11 pp.26~33 2005. 11

Analysis of Barkhausen noise using Monte Carlo simulation for nondestructive evaluation KYamaguchi,S.Tanaka, H.Watanabe,O.Nitto,T.Takgi and K.Yamada J.Mat.Proc.Tech.vol.161 pp.338~342 2005. 1

鉄基磁性微粒子を孤立分散した半導体酸化チタン膜の合成と磁気抵抗の光誘起効果の測定 単著 共生システム vol.3 pp.1~154 2006. 3

Monte Carlo simulation for magnetic dynamic processes of micromagnetic clusters with local disorder KYamaguchi, S.Tanaka,O.Nitto,T.Takgi and K.Yamada Physica B vol.372 pp.252~255 2006. 3

【学会発表】 ナノ環境調和材料の研究 単著 福島市産学支援事業「材料評価研究会」 図福島市 2005. 7

電析ニッケル薄膜の磁気的特性Ⅱ 共著 日本物理学会年次大会 図東京都 2005. 4

## 生命・環境学系

### 木内 豪

【論文】 Distributed hydrologic modeling in a partially urbanized agricultural watershed using water and energy transfer process model Y.Jia,J.Yoshitani Jour.of hydrologic Eng.,ASCE Vol.10.No.4,253-263 2005

窒素を対象とする農地汚濁負荷量算出方法の提示と分布型モデルによる河川・地下水の水質解析 飯泉佳子、深見和彦 土木技術資料 47,44-49 2005. 11

都市の人工排熱が河川水温に及ぼす影響 宮本守、八木宏、中山有、神田学 土木学会水工学論文集 50,1069-1074 2006. 2

都市人工排水系における水・熱輸送に関する観測研究 中山有、神田学、森脇亮 土木学会水工学論文集 50,511-516 2006. 2

【学会発表】 冬期の荒川下流域における水・熱輸送の実態解明 宮本守、八木宏、深見和彦 第60回土木学会年次学術講演会 図早稲田大学 2005. 9

荒川下流域における河川水温の上昇傾向と都市排水の影響 宮本守 水文・水資源学会2005年研究発表会、筑波大学 図筑波大学 2005. 8

都市下水道による熱輸送に関する観測研究 中山有、神田学、森脇亮 水文・水資源学会2005年研究発表会、筑波大学 図筑波大学 2005. 8

Chemical characteristics of stream water and material balance at a forested catchment in Tokyo,Japan Y.Iizumi,H.Hara Acid rain 2005 図チェコ・プラハ 2005. 6

筑波台地緩斜面における地下水の流動と硝酸イオンの濃度分布 飯泉佳子、田中智也、田瀬則雄、深見和彦 水文・水資源学会2005年研究発表会、筑波大学 図筑波大学 2005. 8

農地流域における窒素汚濁負荷量算出手法の構築と分布型モデルを用いた河川・地下水の水質解析への応用 飯泉佳子、深見和彦 水文・水資源学会2005年研究発表会、筑波大学 図筑波大学 2005. 8

東京都区部における河川等水面の消失と夏期高温化の関係について 前村良雄、水垣浩、深見和彦 土木学会第60回年次学術講演会 図早稲田大学 2005. 9

筑波台地・低地域におけるイオン濃度分布と地下水流動の解明 飯泉佳子、田中智也、田瀬則雄、深見和彦 日本陸水学会第70回大会 図大阪教育大学 2005. 9

Simulation of wastewater impact on stream temperature in urban rivers under tidal validation M.Miyamoto XXXI IAHR Congress,Seoul,Korea 図ソウル 2005. 9

Long-term change of stream temperature: implication for impact of anthropogenic heat input due to urbanization H.Yagi,M.Miyamoto XXXI IAHR Congress,Seoul,Korea 図ソウル 2005. 9

土壌中における重金属イオンの移動・吸着に関するカラム実験 山本芳樹、野原昭雄 日本水環境学会第40回年会講演集 図東北学院大学 2006. 3



## 木村 吉幸

- 【論文】 福島県南会津郡檜枝岐村における冬季のニホンジカの胃内容物について 岩崎雄輔、木村吉幸、大槻晃太 福島生物 No. 48 2005. 8
- 福島県域尾瀬におけるニホンジカの越冬状況について—平成15年度調査結果— 内藤俊彦、木村吉幸 福島生物 No. 48 2005. 8
- 【調査報告】 尾瀬地域におけるニホンジカについて—平成16・17年(2004・2005)の自動撮影装置による調査結果— 木村吉幸、内藤俊彦 尾瀬の保護と復元 第27号 2006. 3
- 尾瀬におけるニホンジカによる植生攪乱状況—平成16・17年(2004・2005)調査結果— 内藤俊彦、木村吉幸 尾瀬の保護と復元 第27号 2006. 3
- 福島県域尾瀬におけるニホンジカの越冬状況について—平成16年度調査結果— 内藤俊彦、木村吉幸 尾瀬の保護と復元第27号 2006. 3

## 黒沢 高秀

- 【調査報告】 植物(松川浦周辺及び浦内の島の植物相及び植生). 杉山廣雄、細越啓、北岡文美代、坪井恭子、黒沢高秀 重要湿地松川浦総合調査報告書, 福島県生活環境部自然保護グループ, 福島, 2005. 3 (実際は10月以降)
- 松川浦の植物目録. 細越啓、北岡文美代、坪井恭子、黒沢高秀、杉山廣雄 重要湿地松川浦総合調査報告書, 福島県生活環境部自然保護グループ, 福島, 2005. 3 (実際は10月以降)
- 福島県相馬市宇多川水系菖蒲形の植物相. 宇多川水系生物調査～菖蒲形の生き物たち～, 相馬の水と食を守る会, 相馬, 2006. 3
- 【訳書・翻訳】 ヘイウッド花の大百科事典. [Heywood, V.H., Moore, D.M., Richardson, I.B.K. & Stearn, W.T. (eds.). 1978. Flowering Plants of the World. Andromeda Oxford Ltd., Oxfordshire.] 共訳 朝倉書店, 東京 2005. 4
- 【学会発表】 ティーブレイクの幸運: シッキム・ヒマラヤ産タヌキノシヨクダイ属(ヒナノシヤクジョウ科)の一新種. 日本植物学会東北支部会第18回大会 函岩手大学 2005. 12
- 複数の植生帯にわたって生育する植物の分類・生態・植物地理—ナツトウダイ類

(トウダイグサ科)などの分析例と研究材料としての魅力 日本植物分類学会第5回大会 函琉球大学 2006. 3

## 後藤 忍

- 【論文】 家庭からの食品廃棄物の再生利用による住民の認識と行動への影響 科学研究費補助金 研究成果報告書 課題番号15530017 家電リサイクル法・食品リサイクル法の実証的研究 pp. 44-79 2006. 3
- 【調査報告】 福島県の物質フロー調査 研究成果報告書 (福島県からの受託研究) 32 p 2005. 12
- 【学会発表】 環境教育ツールとしての環境麻雀の開発 日本環境教育学会 函京都教育大学 2005. 5

## 後藤 秀昭

- 【著書】 1:25,000都市圏活断層図「本庄・藤岡」 後藤秀昭、中田高、今泉俊文、池田安隆、越後智雄、澤祥 国土地理院D・1—No. 449
- 1:25,000都市圏活断層図「大垣」 鈴木康弘、池田安隆、後藤秀昭、東郷正美、宮内崇裕 国土地理院D・1—No. 449
- 1:25,000都市圏活断層図「塩原」 今泉俊文、越後智雄、後藤秀昭、澤祥、宮内崇裕、八木浩司 国土地理院D・1—No. 449
- 【論文】 中央構造線活断層帯(四国)における最近の研究成果 後藤秀昭 地理科学 60 194-199
- アナグリフ画像を利用した中学校での地理授業 後藤秀昭、三浦昂也、初沢敏生 福島大学教育実践総合センター紀要48 25-31
- Late Quaternary faulting along the western margin of the Poronaysk Lowland in central Sakhalin, Russia Tsutsumi, H., Suzuki, Y., Kozhurin, A.I., Strel'tsov, M.I., Ueki, T., Goto, H., Okumura, K., Bulgakov, R. F., and Kitagawa, H. Tectonophysics 407 257-268
- 【学会発表】 常磐海岸北部の旧ラグーンからみいだされた津波堆積物 後藤秀昭、青山繁雄 地球惑星科学関連学会2005年合同大会 函幕張メッセ国際会議場 2005. 5
- 黒松内低地断層帯蔵岱断層の活動間隔 吾妻崇、奥村晃史、後藤秀昭、杉山雄一、寒川旭、黒澤英樹、三輪敦志 地球惑星科学関連学会2005年合同大会 函幕張メッセ国際会議場 2005. 5

ルソン島中部におけるフィリピン断層帯の過去2000年間の活動履歴 堤浩之、後藤秀昭、近藤久雄、奥野充、中田高、Jessie A.Daligdig、Norman M.Tungol 日本地質学会 関京都大学 2006. 9

## 小山 純正

【論文】 State-dependent effects of orexin on the serotonergic dorsal raphe neurons in the rat. Takahashi K., Wang Q.-P., Guan J.-L., Kayama Y., Shioda S. Reg. Peptide 126 : 43-47 2005. 4

The orexinergic synaptic innervation of serotonin- and prexin 1 receptor-containing neurons in the dorsal raphe nucleus. Wang Q.-P., Guan J.-L., Kayama Y., Takahashi K., Kayama Y. and Shioda S. Reg. Peptide 126 : 35-42 2005. 4

Input of orexin/hypocretin neurons revealed by genetically encoded tracer in mice. Sakurai T., Nagata R., Yamanaka A., Kawamura H., Tsujino N., Muraki Y., Kageyama H., Kunita S., Takahashi S., Goto K., Shioda S., Yanagisawa M. Neuron 46: 297-308, 2005. 4

Subthalamic neurons coordinate basal ganglia function through differential neural pathways Yasoshima Y., Kai N., Yoshida S., Shiosaka S., Kayama Y., Kobayashi K. J. Neurosci. 25 : 7743-7753 2005. 7

Orexinergic projections to the midbrain mediate alternation of emotional behavioral states from locomotion to catalepsy. Takakusaki K., Takahashi K., Saitoh K., Hirofumi Harada H., Toshikatsu Okumura T., Kayama Y. J. Physiol. 568: 1003-1020 2005. 7

Postnatal development of cholinergic neurons in the mesopontine tegmentum revealed by histochemistry Ninomiya Y., Kayama Y., Koyama Y. Int. J. Devl. Neurosci. 234 : 711-721 2005. 9

視床下部オレキシンニューロンの活動特性 単著 Clinical Neuroscience 23 : 232 2005. 5

【学会発表】 Firing of putative cholinergic neurons in the laterodorsal tegmental nucleus is related to the hippocampal theta wave Karashima A., Koyama Y., Katayama N., Iwasaki N., Nakao M. The 35th Annual Meeting of Society for Neuroscience 関Washington 2005. 11

Regulation of two types of paradoxical

sleep-on (PS-on) neurons by noreadrenergic and GABAergic neurons. Koyama Y., Takahashi K., Kayama Y. The 35th Annual Meeting of Society for Neuroscience 関Washington 2005. 11

Different parts of the preoptic area regulate penile erection in different ways. Toledo J. C., Iwasaki H., Kayama Y., Kawachi A., Miki T., Kayama Y. The 35th Annual Meeting of Society for Neuroscience 関Washington 2005. 11

排尿中枢ニューロンの感覚応答性 関英夫、小山純正、田中善之、河内明宏、三木恒治、香山雪彦 第82回日本生理学会大会 関仙台 2005. 5

橋被蓋核におけるオレキシンによる GABA の放出 小山純正、児玉亨、高橋和巳、高草木薫 日本睡眠学会第30回定期学術集会 関宇都宮 2005. 6

中脳一橋被蓋におけるオレキシンはカタプレキシーを抑制する 高橋和巳、高草木薫、原田広文、斉藤和也、奥村利勝、小山純正 日本睡眠学会第30回定期学術集会 関宇都宮 2005. 6

背外側被蓋核神経活動前後に見られる海馬θ波の加速・増減現象 辛島彰洋、小山純正、片山統裕、中尾光之 日本睡眠学会第30回定期学術集会 関宇都宮 2005. 6

Electrical stimulation around the 4 laterodorsal tegmental nucleus causes penile erection during rapid eye movement (REM) sleep Toledo J. Carlos, 小山純正, 香山雪彦 日本睡眠学会第30回定期学術集会 関宇都宮 2005. 6

Different components of penile erection evoked from distinct areas of the brainstem after electrical stimulation. Toledo, J. C., Koyama Y., Schmidt M. H., Kayama Y. 第28回日本神経科学大会 関横浜 2005. 7

背外側被蓋野の神経活動に伴って観測される海馬θリズムの加速現象 辛島彰洋、小山純正、片山統裕、中尾光之 第28回日本神経科学大会 関横浜 2005. 7

ラット前脳のセロトニン及びGABA作動性ニューロンの加齢による変化 二宮治重子、小山純正、香山雪彦 第28回日本神経科学大会 関横浜 2005. 7

ラット橋排尿中枢ニューロンの膀胱伸張刺激への応答性 関英夫、小山純正、香山雪彦、田中善之、河内明宏、三木恒

- 治 第38回東北生理談話会 圏福島  
2005. 10
- ラット橋排尿中枢ニューロンへの感覚性  
入力 関英夫、小山純正、田中善之、  
浮村 理、河内明宏、香山雪彦、三木恒  
治 第12回日本排尿機能学会 圏松本  
2005. 10
- Suppressive effect of acupuncture to the  
sacral segment on bladder activity and on  
the state of vigilance Hui Wang,  
Yoshimasa Koyama, Yukihiko Kayama  
第2回環境生理学プレコンgres・グル  
ープディナー 圏前橋 2006. 3
- 外背側被蓋核によるレム睡眠中の陰莖勃  
起の調節 小山純正、高橋和巳、香山  
雪彦 第83回日本生理学会大会 圏前橋  
2006. 3
- ラット排尿中枢ニューロンへの入力様式  
と神経伝達物質の同定 関英夫、小山  
純正、田中善之、河内明宏、香山雪彦、  
三木恒治 第94回日本泌尿器科学会総会  
圏博多 2006. 3
- Orexinergic regulation of muscular tonus  
第82回日本生理学会大会シンポジウム  
圏仙台 2005. 5
- Neural mechanisms that induce blood  
pressure fluctuation during REM sleep.  
第28回日本神経科学大会(シンポジウ  
ム) 圏横浜 2005. 7
- 睡眠 シンポジウム：生命の基本を司  
る本能的脳機構 圏さいたま 2006. 1
- 柴崎 直明**
- 【著 書】日本の地質 増補版 共著 共立出版  
地球のなぞを追って—私たちの科学運動  
— 共著 大月書店
- 【論 文】地下水シミュレーション—途上国におけ  
る適用と技術移転— 地球科学 59・6  
2005. 11
- 【調査報告】阿武隈川流域の地下水流動についての基  
礎研究 自然共生・再生研究, 共生のシ  
ステム 2 2006. 3
- 【学会発表】アフリカ・ガーナの地下水ヒ素汚染  
共同発表(柴崎直明・Enoch B.A.・John  
G.A.) 第10回アジア地下水ヒ素汚染  
フォーラム 圏新潟 2005. 11
- 塘 忠顕**
- 【論 文】Thrips(Thysanoptera: Thripidae) on the  
flowers of a dioecious plant, *Dioscorea ja*  
*pionica* (Dioscoreaceae) M, Inoue, N.  
Osawa Canadian Entomologist 137, 712-  
715 2005. 9
- カカトアルキ目の卵巣構造・卵形成と系  
統 東城幸治, 内船俊樹, 町田龍一郎  
生物科学 57(1), 23-28 2005. 9
- カカトアルキ目の胚発生と系統 町田  
龍一郎, 東城幸治, 内船俊樹 生物科  
学57(1), 29-34 2005. 9
- Ovarian structure and oogenesis of the  
South African heel-walker *Karoophasma*  
*biedouweinsis* (Insecta: Mantophasma  
toidea) K.Tojo, R.Machida Proceed  
ings of Arthropodan Embryological So  
ciety of Japan 40, 15-22 2005. 12
- コカゲロウ類の卵膜の微細構造とその形  
成過程 夏坂和史 Proceedings of  
Arthropodan Embryological Society of  
Japan 40, 31-34 2005. 12
- Tenothrips frici* (Uzel) の腹板腺の微細  
構造(総翅目: 穿孔亜目) 下谷沙織  
Proceedings of Arthropodan Embryo  
logical Society of Japan 40, 35-39  
2005. 12
- Postembryonic development of ovaries  
in two phlaeothripine thrips, *Liothrips ku*  
*wanai* and *Ponticulothrips diospyrosi* (In  
secta: Thysanoptera) Y. Ishikawa  
Zoological Science 22, 1434 2005. 12
- 【調査報告】摺上川ダム建設後におけるダム周辺流域  
の底生動物相 山下 雄, 遠藤純香  
共生のシステム 2, 52-53 2006. 3
- 【学会発表】Hydatothrips 属のアザミウマ類の腹板腺の  
微細構造(総翅目: 穿孔亜目) 日本  
節足動物発生学会第41回大会 圏名古屋  
大学 2005. 6
- フウトウカズラクダアザミウマとカキク  
ダアザミウマの卵巣構造の形成過程  
日本節足動物発生学会第41回大会 圏名  
古屋大学 2005. 6
- 日本から再発見された *Stephanothrips mis*  
*canthi* (総翅目: クダアザミウマ科) の生  
息場所 日本昆虫学会第65回大会  
圏岡山大学 2005. 9
- フウトウカズラクダアザミウマとカキク  
ダアザミウマの卵巣の後胚発生 日本  
動物学会第76回大会 圏筑波大学  
2005. 10
- 長橋 良隆**
- 【著 書】ふくしまの火山と災害 単著 歴史  
春秋出版株式会社
- 【論 文】後期新生代, 東北本州弧における火成活  
動史と地殻・マントル構造 吉田武義,

- 中島淳一、長谷川 昭、佐藤比呂志、長橋良隆、木村純一、田中明子、Prima,O. D.A.、大口健志 第四紀研究 44(4) 2005. 8
- 【学会発表】** 長野県北部・高野層ボーリングコアのテフラ層序 日本第四紀学会 関島根大学 2005. 8
- 長野市高野層全層ボーリングコアの層相とTOC含有率変動 日本第四紀学会 関島根大学 2005. 8
- 近畿地方の第四紀テフラ層序に基づく大規模爆発的噴火の頻度 日本地質学会 関京都大学 2005. 9
- 高野層の有機炭素(TOC)含有率に基づく更新世後期の古気候変動の解明 日本地質学会 関京都大学 2005. 9

## 永幡 幸司

- 【著 書】** 音の百科事典 分担執筆 丸善
- 【論 文】** 現代の俳句に詠み込まれたサウンドスケープの特徴 共著 サウンドスケープ7 2005
- 街頭ビジョンはどのように視聴されているのか：福島大学中央広場の場合 共著 サウンドスケープ 7 2005
- A Basic Study on Adequate Sound Levels of Acoustical Signs for Visually Impaired 共著 Proceedings of 12th International Congress on Sound and Vibration 2005
- On the Adequate Sound Levels for Acoustic Signs for the Visually Impaired: A Basic Study for Barrie-free Soundscape Designs 共著 Proceedings of Internoise 2005 2005
- 視覚障害者には役立たない視覚障害者のためのバリアフリーデザインの事例について 単著 騒音制御 29(5) 2005
- 【学会発表】** 市民がイメージする80dBとはどの位の大きさか？ 日本音響学会騒音・振動研究会 関仙台 2005. 7

On the Adequate Sound Levels for Acoustic Signs for the Visually Impaired: A Basic Study for Barrie-free Soundscape Designs inter-noise 2005 関Rio de Janeiro 2005. 8

視覚障害者が音響信号及び盲導鈴に求める音量について 日本騒音制御工学会 関横浜 2005. 9

新潟県中越地震の避難所における音の問題について 日本音響学会 関東京

## 難波 謙二

- 【論 文】** 海底熱水系における有機化合物および親生元素安定同位体組成の分布から地下生物圏を探る試み 山中寿朗、奈良岡浩、鈴木弥生子、北島富美雄、難波謙二、高野淑識、小林憲正、堀内司. 海の研究 14(2):267-277 2005. 2
- 自噴井の湧出試験とその有効利用—茨城県北浦西岸での水辺環境再生への応用 藤崎克博、篠原誠、難波謙二、楡井久 地質学雑誌 111(4):234-248 2005. 4

In situ bioremediation of a cis-dichloroethylene-contaminated aquifer utilizing methane-rich groundwater from an uncontaminated aquifer Takeuchi,M., Nanba,K.,Iwamoto,H.,Nirei,H.,Kusuda,T., Kazaoka,O.,Owaki,M.and Furuya,K. Water Research 39:2438-2444 2005

Distribution and fate of biologically formed organoarsenicals in coastal marine sediment Takeuchi,M.,Terada,A., Nanba,K.,Kanai,Y.,Owaki,M.,Yoshida,T., Kuroiwa,T.,Nirei,H.and Komai,T. Applied Organometallic Chemistry 19:945-951 2005

関東ローム層におけるクエン酸アルミニウム分解微生物の分布 高嶋恒太、難波謙二、楡井久 地質汚染—医療地質—社会地質学会誌 1:68-80 2005

- 【学会発表】** 河床のバイオフィームが河川水中のウラン濃度の減少に及ぼす影響 須甲武志、難波謙二、吉田崇宏、鈴木正哉、奥澤康一、関陽陽児、間中光雄、渡部芳夫 日本地質学会第112年学術大会 関京都 2005. 9

潮来市内完新統の微生物・地質・化学の相互影響(2) 難波謙二、宮坂郁、加藤憲二、楡井久、福永栄、菅野毅 第15回環境地質学シンポジウム 関横浜 2005.12

## 虫明 功臣

- 【著 書】** 変革と水の21世紀 共著 山海堂 2004.12
- 自然と共生した流域圏・都市の再生 共著 山海堂 2005. 2
- 分散型サンテーションと資源循環 監修 技報堂出版 2005. 3
- 流域圏プランニングの時代 共著 技報堂出版 2005. 3

- 【論文】 Analysis of water resources variability in the Yellow River of China during the last half century using historical data Dawen Yang, Katumi Musiaka, et. al Water Resources Research Vol.40 2004. 6
- Challenges to Hydrology and Water Resources in Monsoon Asia Katumi Musiaka Proceedings of International Conference on "Advances in Integrated Mekong River Management" 2004. 10

## 渡邊 明

- 【論文】 2005年の降雪特性 東北の雪と生活 Vol. 20 2005. 10
- CReSSによるやませの再現実験 東北地域災害科学研究 Vol. 42 2006. 3
- 短時間強雨監視のための面的雨量の推定 東北の農業気象 Vol. 50 2006. 3
- 【調査報告】 面的雨量の精度向上と雨水による酸性物質の負荷量について 共生のシステム Vol. 2 2006. 3
- CReSSを用いた福島県における冬季降雲形成に関する研究 「1 kmメッシュの領域水循環モデリング研究成果報告書」 2006. 3
- 【学会発表】 福島県北東部の強風出現機構 日本気象学会 圏東京 2005. 5
- CReSSによるやませの再現実験 日本農業気象学会東北支部 圏秋田 2005. 7
- 降雪システムと降雪の局地性 日本水学会 圏旭川 2005. 9
- チャンネル型地形内での強風出現 日本自然災害学会 圏仙台 2005. 11
- レーダー・アメダスデータによる降水特性の解析 日本気象学会 圏神戸 2005. 11
- 酸性雨のイオン濃度特性について 大気環境学会北海道東北支部 圏青森 2005. 11
- 東北地方の豪雨について 日本自然災害学会東北支部講演会 圏福島 2006. 1
- 山岳波について 日本自然災害学会東北支部講演会 圏福島 2006. 1
- 福島駅東口のビル風について 日本自然災害学会東北支部講演会 圏福島 2006. 1
- 短時間強雨監視のための面的雨量の推定 日本自然災害学会東北支部講演会 圏福島 2006. 1

## 渡辺 英綱

- 【論文】 Effect of Salt Loading on Blood Pressure in Mice Lacking the Prostanoid Receptor Gene. Tetsuo Katoh, Masaaki Eiro, Masaya Iwamoto, Fumitaka Ushikubi, Shuh Narumiya, Tsuyoshi Watanabe. CirJ Vol.69 No.1 January 2005 Pages 124-126 2005. 1
- 労働者の疲労蓄積度自己診断チェックリストと脳心血管危険因子との関連性 渡辺厚、酒井コウ、川上敦子 CAM-PUSHEALTH 42(1), p167 2005
- 頸動脈超音波検査を用いたライフスタイル改善、減量支援法の創出 第20回健康医科学研究助成論文集 p144-152, 3, 2005
- 機能性香料による抗肥満作用 COSMETOLOGY コスメトロジー研究報告 volume13, p34-37 2005
- 大学生の睡眠習慣と血圧 早稲田大学大学院人間科学研究科 浅岡章一、福島大学教育心理学 福田一彦 CAMPUS HEALTH 42 (1), p144 2005
- 【学会発表】 大学入学後新規喫煙開始者の背景 第43回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会 圏宮城県 ホテルモンテロ仙台 2005. 7
- 75 g OGTTのIRIPeak時間とインスリン抵抗性指標の関連性 第52回福島県農村医学会総会 圏棚倉町文化センター、福島県 2005. 6
- 健常者のインスリン抵抗性と高感度CRPおよびE-selectinの関連 第102回日本内科学会総会講演会 圏大阪国際会議場、大阪 2005. 4
- 75 g OGTTのインスリン分泌動態の予測因子 第48回日本糖尿病学会年次学術集会、神戸国際会議場 圏神戸 2005. 5
- Higher plasma aldosterone concentration is a risk factor for progression of renal injury in Hypertension 3rd World Congress of Nephrology 圏Singapore 2005. 6
- 肥満学生の内臓脂肪型肥満と脂肪肝の関係 第43回全国保健管理研究集会 圏山形テルサ、山形 2005. 10
- 大学生の血圧変動と睡眠時間の関連性 第43回全国保健管理研究集会 圏山形テルサ、山形 2005. 10
- 東北地方各大学での定期健康診断尿検査

法と受診 第48日本腎臓学会学術総会  
院パシフィコ横浜、横浜 2005. 6

## 福島大学研究年報編集・投稿規定

### I、性格規定

1. 本研究年報は、大学が重点的に配分する研究経費に基づく研究成果を公表することを目的とする。
2. 大学が重点的に配分する研究経費は、以下のとおりである。
  - (1)奨励的研究経費
  - (2)学術振興基金・学術研究支援助成
  - (3)プロジェクト研究推進経費
3. 本研究年報は、論文、研究成果報告書、及び前年度研究業績一覧をもって構成する。論文、研究成果報告書、及び前年度研究業績一覧の詳細については、以下に記載する。

### II、募集・刊行

1. 本研究年報に関する原稿の募集期限は9月末日とし、同年12月31日付けで刊行する。
2. 論文については投稿締め切り日をもって受理日とし、論文末尾にこれを記載する。

### III、担当委員会及び事務部

1. 本研究年報の編集及び出版にかかる作業は研究推進委員会内に設置される研究年報編集委員会が行い、投稿論文の掲載の可否、研究成果報告書、及び前年度研究成果一覧の体裁や形式にかかる調整を担当する。
2. 本研究年報の刊行にかかる事務は研究連携課が行い、発送業務は附属図書館及び関係部署において行う（送付先が大学の場合は附属図書館宛に送付）。

### IV、論 文

1. 論文は、前年度の重点的予算に基づく研究成果を論文形態で公表するものであり、その内容により「論文」と「調査報告」に分けられる。「論文」には査読（レフェリー）制度を適用する。
2. 「論文」「調査報告」は刷り上がり10頁（400字詰め原稿用紙換算で50枚）を上限とし、下限は定めない。
3. 「論文」「調査報告」が制限頁数を越えた場合は、当該論文の投稿者（単位）が越えた分の必要経費を負担する。負担額は別に定める。
4. 本年報に掲載された「論文」「調査報告」の著作権は福島大学に帰属する。ただし、著作者（単位）自身は、自分の論文、調査報告の全部または一部を複製、翻訳、翻案などの形で利用することができる。なお、研究年報の全容は原則として電子化するものとし、附属図書館ホームページを通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。
5. 「論文」「調査報告」は9月末日までに研究連携課に提出する。

### V、禁止事項

1. 本研究年報に掲載される論文は、未公刊のものに限る。研究者の倫理に基づき、論文の盗用、ならびに二重投稿を禁止する。
2. 論文の盗用、二重投稿と認められる行為があった場合は、その内容に基づき一定期間本研究年報への投稿を認めない。
3. 論文の盗用、二重投稿と認められる行為があった場合は、大学の説明責任に基づき、その事実関係、大学の処置について本研究年報誌上に公表するものとする。

### VI、査 読

1. 本研究年報に掲載する論文に査読を義務づける。
2. 編集委員会は査読者2名を選任し、論文の査読を依頼する。査読期間はおおむね2週間以内とする。
3. 査読者は、必要があれば助言を付して、当該論文の本年報への掲載の可否について編集委員会に意見を述べる。投稿者は助言を参照のうえ、必要があれば論文の加筆、訂正等を行うものとする。

## Ⅶ、研究成果報告書

1. 大学が重点的に配分した研究経費による研究成果の報告を、本研究年報に掲載する。
2. 大学から重点的研究経費の配分を受けた者（単位）は、別に定める様式により4月末日までに研究成果報告書を研究連携課に提出する。

## Ⅷ、前年度研究成果一覧

1. 本研究年報に、全教員の前年度（4月1日から翌年3月31日まで）1年間の「研究業績リスト」を掲載する。新規着任教員についても、前年度の全業績を掲載する。
2. 「研究業績リスト」の掲載項目は、以下のとおりである。
  - (1)著書……書名、単著、共著、共編著等の別、出版社名
  - (2)論文……論文題目、共同執筆者がある場合はその氏名、掲載誌名、巻号、刊行年月
  - (3)調査報告（判例批評等を含む）……題目、共同執筆者がある場合はその氏名、掲載誌名、巻号、刊行年月
  - (4)訳書……単著、共著、共編著等の別、出版社名
  - (5)学会発表……発表題目、学会名、場所、発表年月日
  - (6)実技に関する業績……開催者名（競技会、展覧会、演奏会等の名称）、題目（競技名、作品名等）、成績、開催年月日
  - (7)書評……題目、掲載誌名、巻号、刊行年月
  - (8)特許……特許名、発明者名、出願番号
3. 教員は別に定める様式により、9月末日までに「研究業績リスト」を編集委員会に届ける。

## Ⅸ、配 布

本研究年報の配布先は、以下のとおりとする。

- (1)国立国会図書館
- (2)本学と機関誌交換による研究交流のある全国公私立大学、短期大学、国立工業高等専門学校
- (3)海外の交流協定締結大学
- (4)福島県立図書館、ならびに県内公立図書館
- (5)本学教員
- (6)上記以外に、本年報の配布を必要とする機関

## Ⅹ、編集細則、執筆要領

本研究年報の編集にかかる細則、ならびに執筆要領は別に定める。  
本規定は平成17年11月2日から施行する。